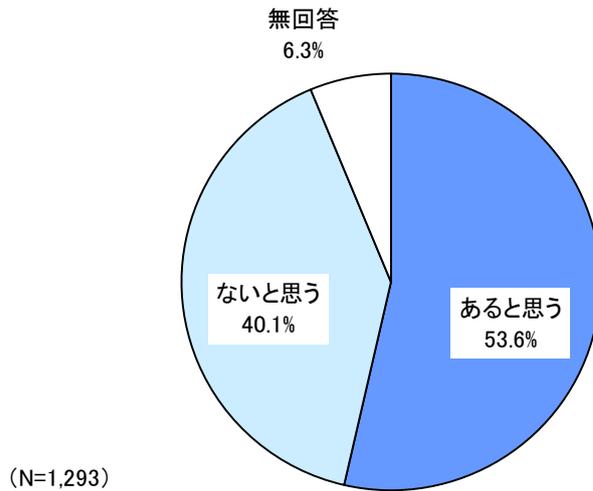


3 同和問題について

(1) 同和地区や同和地区の人々に対する差別

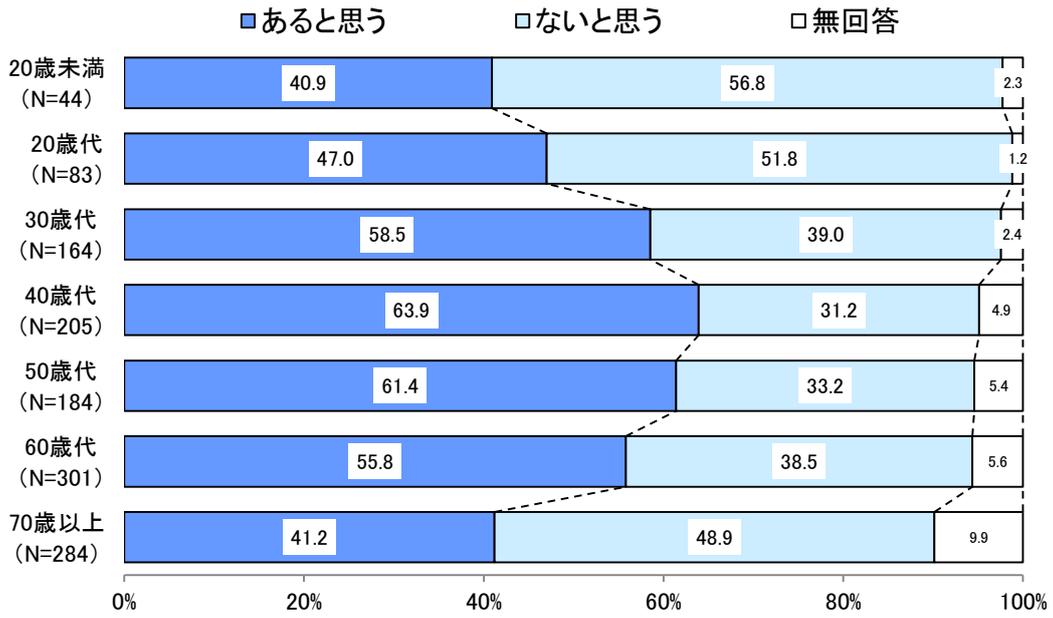
問7 あなたは、同和地区や同和地区の人々に対する差別があると思いますか。
(あてはまる番号1つに○)

【図表 3-1 同和地区や同和地区の人々に対する差別】



同和地区や同和地区の人々に対する差別については、「あると思う」が53.6%、「ないと思う」が40.1%で、「あると思う」が過半数を占めている。(図表 3-1)

【図表 3-1-1 年齢別 同和地区や同和地区の人々に対する差別】

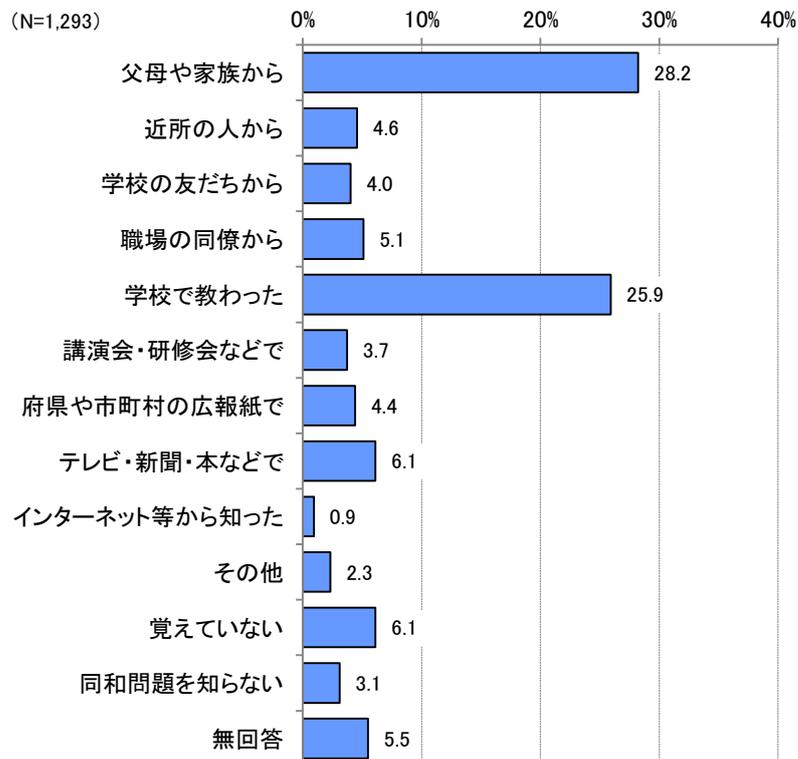


同和地区や同和地区の人々に対する差別を年齢別で見ると、「あると思う」は40歳代の63.9%を頂点に年齢が下がるまたは上がるにつれて低くなっている。(図表 3-1-1)

(2) 同和問題や被差別部落を知った経緯

問8 あなたは同和問題や被差別部落（同和地区）があることを、どのようにして知りましたか。
（あてはまる番号1つに○）

【図表 3-2 同和問題や被差別部落を知った経緯】



同和問題や被差別部落を知った経緯については、「父母や家族から」が28.2%で最も高く、次いで「学校で教わった」が25.9%となっている。それ以外の回答項目は1割を下回っている。(図表 3-2)

【図表 3-2-1 年齢別 同和問題や被差別部落を知った経緯】

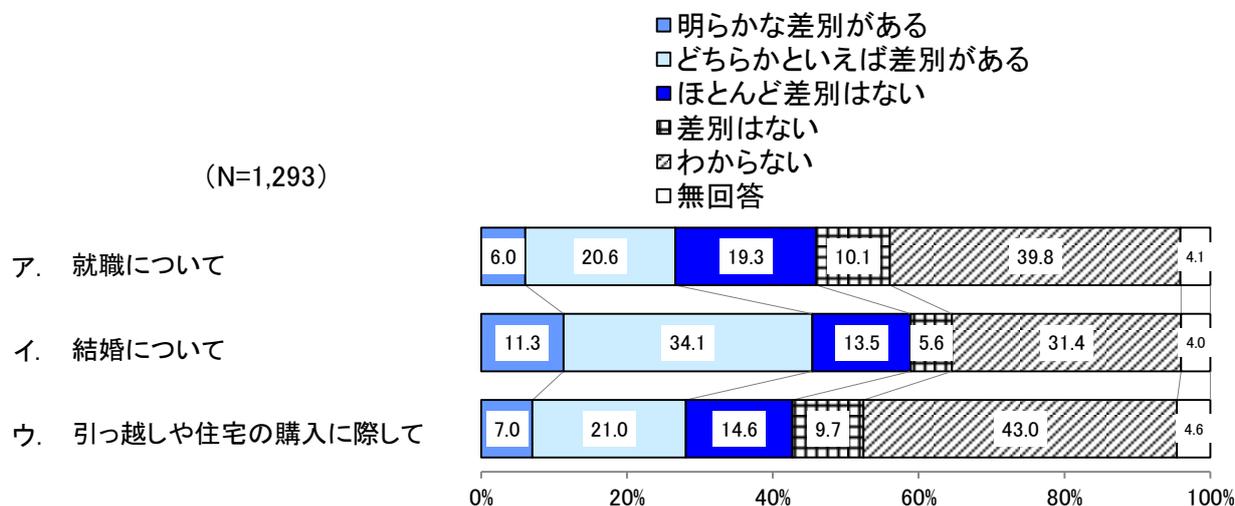
上段(人) 下段(%)		問8													
		あなたは同和問題や被差別部落(同和地区)があることを、どのようにして知りましたか。													
		【単一回答】													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
回答者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		無回答	
	父母や家族から	近所の人から	学校の友だちから	職場の同僚から	学校で教わった	講演会・研修会などで	府県や市町村の広報紙	でテレビ・新聞・本など	知った	インターネット等から	その他	覚えていない	同和問題を知らない		
年齢別	20歳未満	44 100.0	11 25.0	0 0.0	1 2.3	0 0.0	21 47.7	0 0.0	1 2.3	2 4.5	2 4.5	0 0.0	1 2.3	4 9.1	1 2.3
	20歳代	83 100.0	21 25.3	2 2.4	2 2.4	2 2.4	26 31.3	1 1.2	2 2.4	3 3.6	3 3.6	1 1.2	4 4.8	11 13.3	5 6.0
	30歳代	164 100.0	43 26.2	1 0.6	3 1.8	7 4.3	70 42.7	3 1.8	0 0.0	5 3.0	6 3.7	2 1.2	9 5.5	9 5.5	6 3.7
	40歳代	205 100.0	53 25.9	6 2.9	8 3.9	6 2.9	99 48.3	6 2.9	1 0.5	4 2.0	0 0.0	3 1.5	5 2.4	5 2.4	9 4.4
	50歳代	184 100.0	51 27.7	3 1.6	8 4.3	5 2.7	72 39.1	6 3.3	3 1.6	7 3.8	0 0.0	3 1.6	14 7.6	0 0.0	12 6.5
	60歳代	301 100.0	111 36.9	13 4.3	11 3.7	22 7.3	29 9.6	15 5.0	22 7.3	28 9.3	0 0.0	7 2.3	24 8.0	9 3.0	10 3.3
	70歳以上	284 100.0	70 24.6	31 10.9	19 6.7	23 8.1	15 5.3	14 4.9	26 9.2	28 9.9	1 0.4	13 4.6	21 7.4	2 0.7	21 7.4

同和問題や被差別部落を知った経緯を年齢別で見ると、50歳代以下では「学校で教わった」が約3~5割で最も高く、次いで「父母や家族から」が3割近くとなっている。60歳代以上では「父母や家族から」が3割前後で最も高く、それ以外の回答項目は1割前後となっている。(図表 3-2-1)

(3) 就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時の部落差別について

問9 現在、次のことについて部落差別があると思いますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

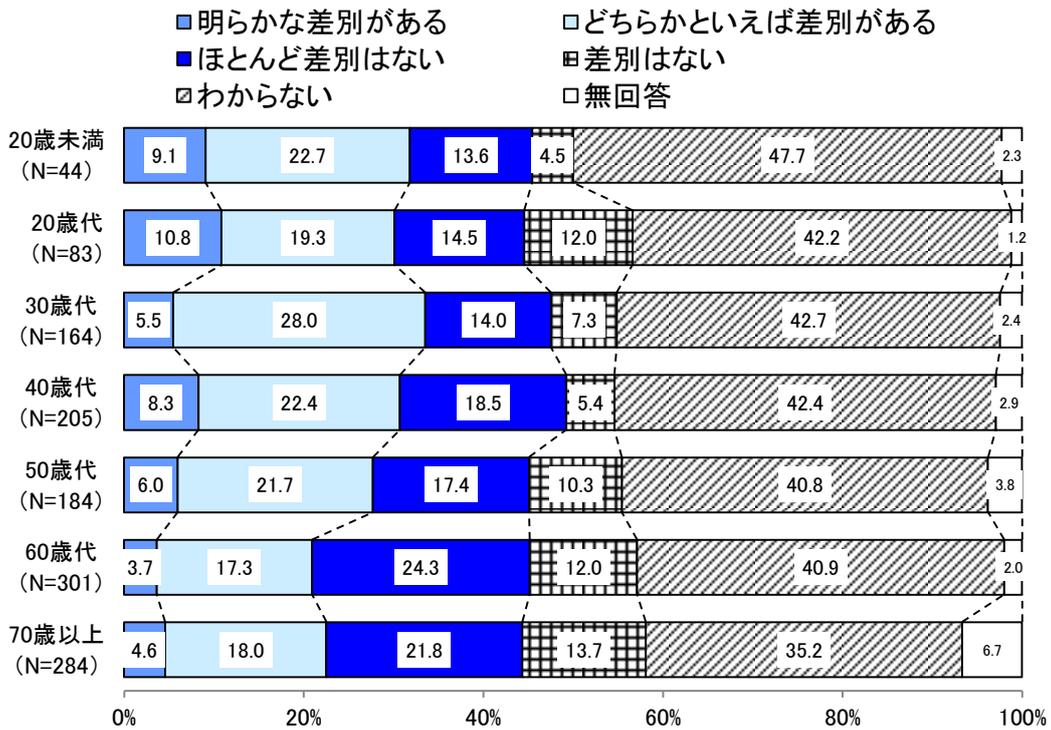
【図表 3-3 就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時の部落差別について】



就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時の部落差別については、“差別がある”（「明らかな差別がある」と「どちらかといえば差別がある」を合わせた数）は「イ.結婚について」が45.4%で最も高く、次いで「ウ.引っ越しや住宅の購入に際して」が28.0%、「ア.就職について」が26.6%となっている。

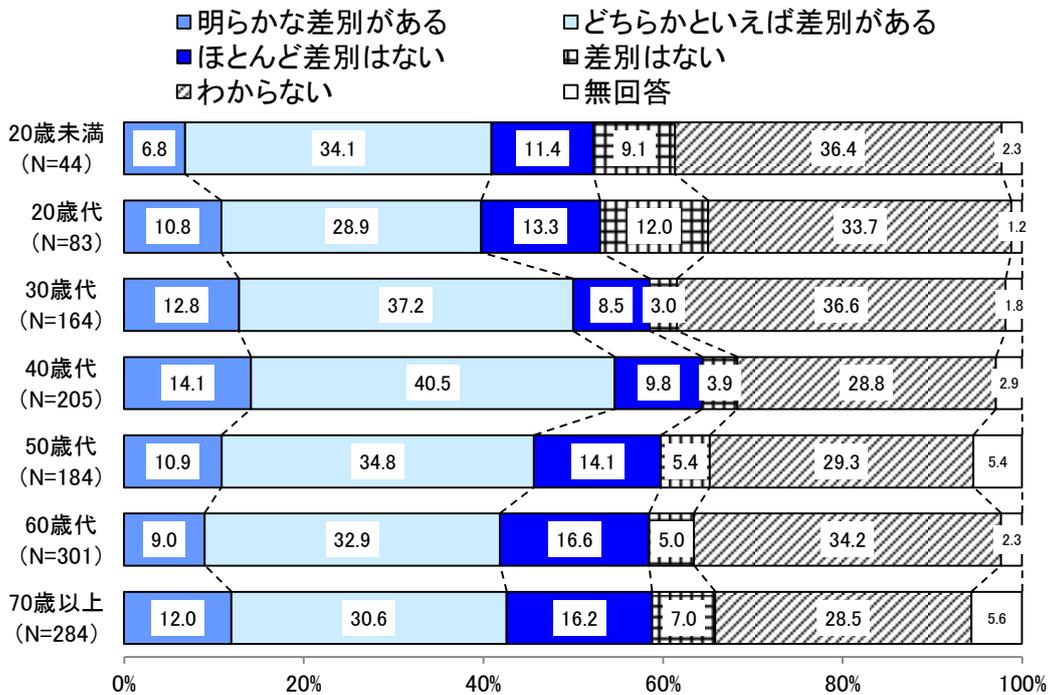
“差別がある”と“差別はない”（「ほとんど差別はない」と「差別はない」を合わせた数）を比べると、「ア.就職について」は“差別はない”が2.8ポイント、「イ.結婚について」は“差別がある”が26.3ポイント、「ウ.引っ越しや住宅の購入に際して」は“差別がある”が3.7ポイント、それぞれ高くなっている。（図表 3-3）

【図表 3-3-1 年齢別 ア. 就職についての部落差別】



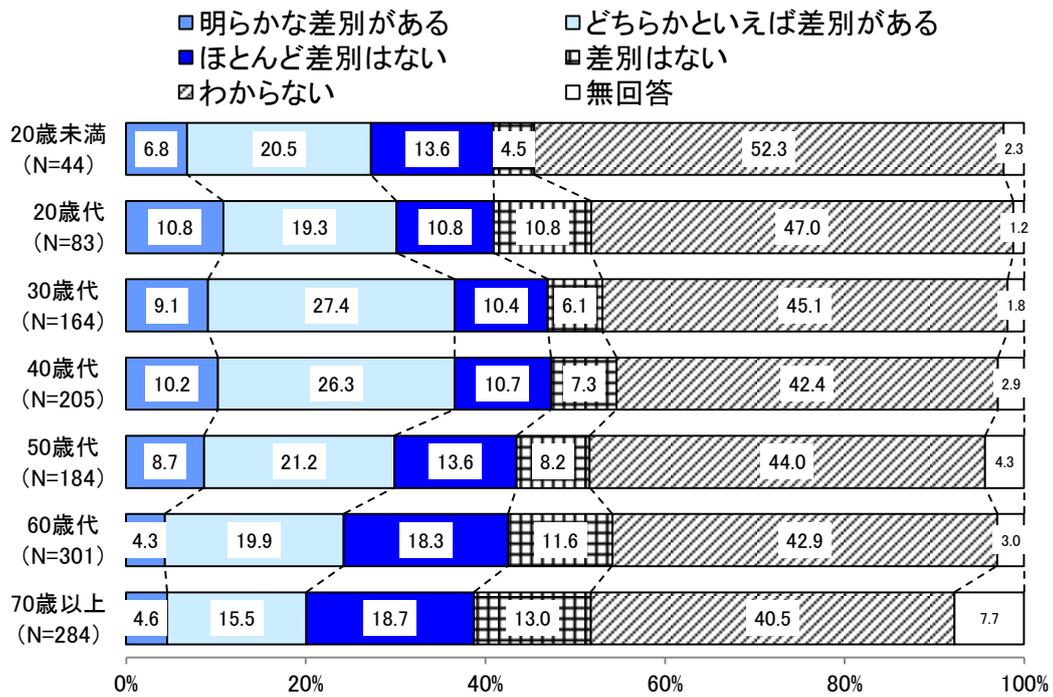
「ア. 就職について」の部落差別を年齢別でみると、「差別がある」は50歳代以下では3割前後、60歳以上では約2割となっている。「差別はない」は20歳未満、30歳代、40歳代は約2割、20歳代と50歳代は3割近く、60歳代以上は3割を超えている。(図表 3-3-1)

【図表 3-3-2 年齢別 イ. 結婚についての部落差別】



「イ. 結婚について」の部落差別を年齢別でみると、いずれの年齢でも「差別がある」が「差別はない」を大きく上回っている。「差別がある」は40歳代が54.6%で最も高く、次いで30歳代が50.0%、50歳代が45.7%となっている。(図表 3-3-2)

【図表 3-3-3 年齢別 ウ. 引っ越しや住宅の購入に際しての部落差別】



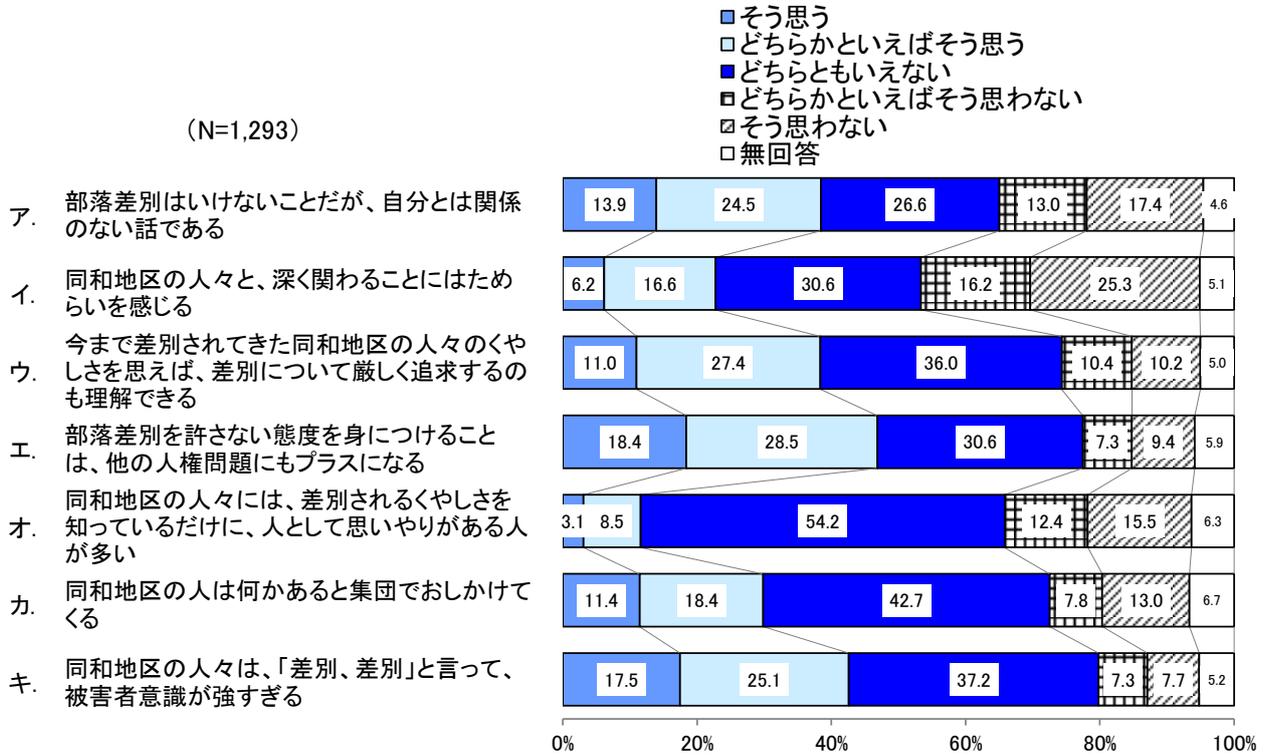
「ウ. 引っ越しや住宅の購入に際して」の部落差別を年齢別で見ると、50歳代以下では“差別がある”が“差別はない”を上回っている。“差別がある”は30歳代と40歳代が36.5%で最も高く、次いで20歳代が30.1%、50歳代が29.9%となっている。(図表 3-3-3)

(4) 同和問題についての考え方

問 10 同和問題について、次のような意見がありますが、あなたはどのように思いますか。
(それぞれあてはまる番号1つに○)

【図表 3-4 同和問題についての考え方】

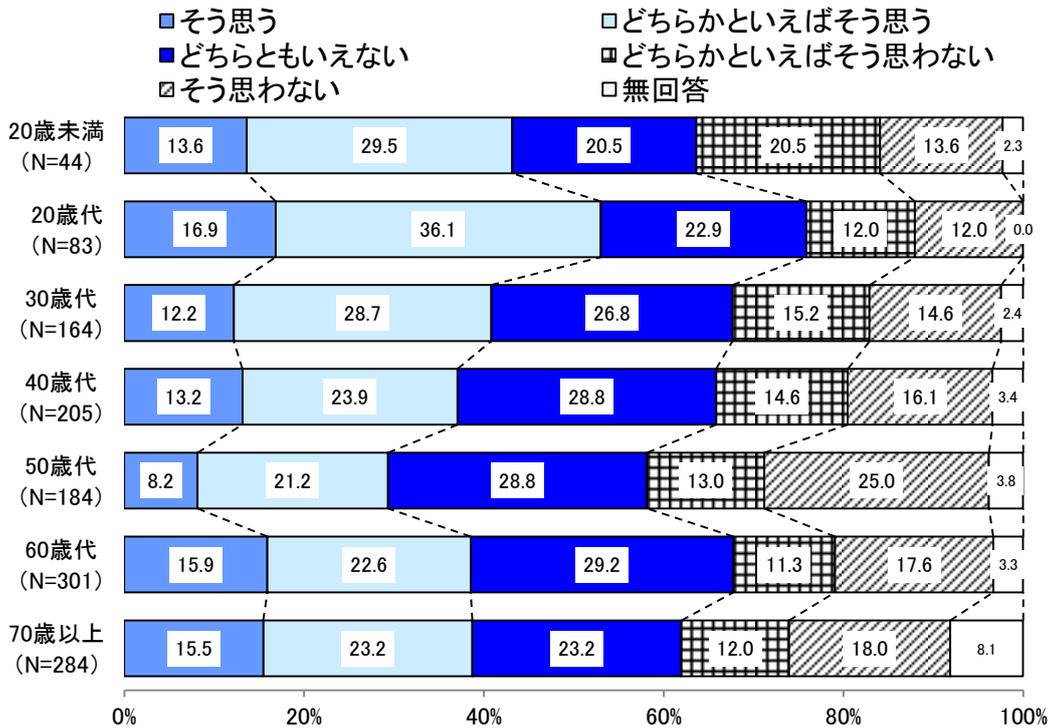
(N=1,293)



同和問題についての考え方について、“肯定派”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“否定派”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）に比べて高い項目は、「ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である」（38.4%）、「ウ. 今まで差別されてきた同和地区の人々のくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる」（38.4%）、「エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる」（46.9%）、「カ. 同和地区の人は何かあると集団でおしかけてくる」（29.8%）、「キ. 同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる」（42.6%）となっている。

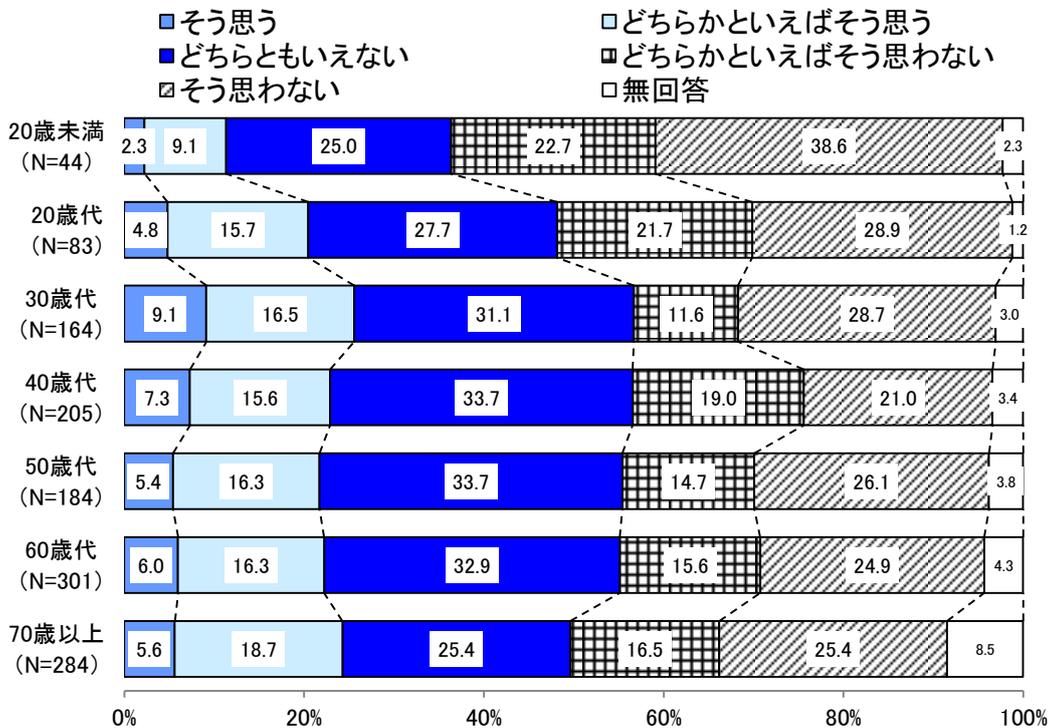
一方、“否定派”が“肯定派に比べて高い項目は、「イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる」（41.5%）、「オ. 同和地区の人々には、差別されるくやしさを知っているだけに、人として思いやりがある人が多い」（27.9%）となっている。（図表 3-4）

【図表 3-4-1 年齢別 ア. 部落差別はいけないうたが、自分とは関係のない話である】



「ア. 部落差別はいけないうたが、自分とは関係のない話である」を年齢別でみると、30歳代以下は“肯定派”が4割を超えている。特に20歳代は53.0%と高くなっている。“否定派”は50歳代が38.0%で最も高く、次いで20歳未満が34.1%、40歳代が30.7%となっている。(図表 3-4-1)

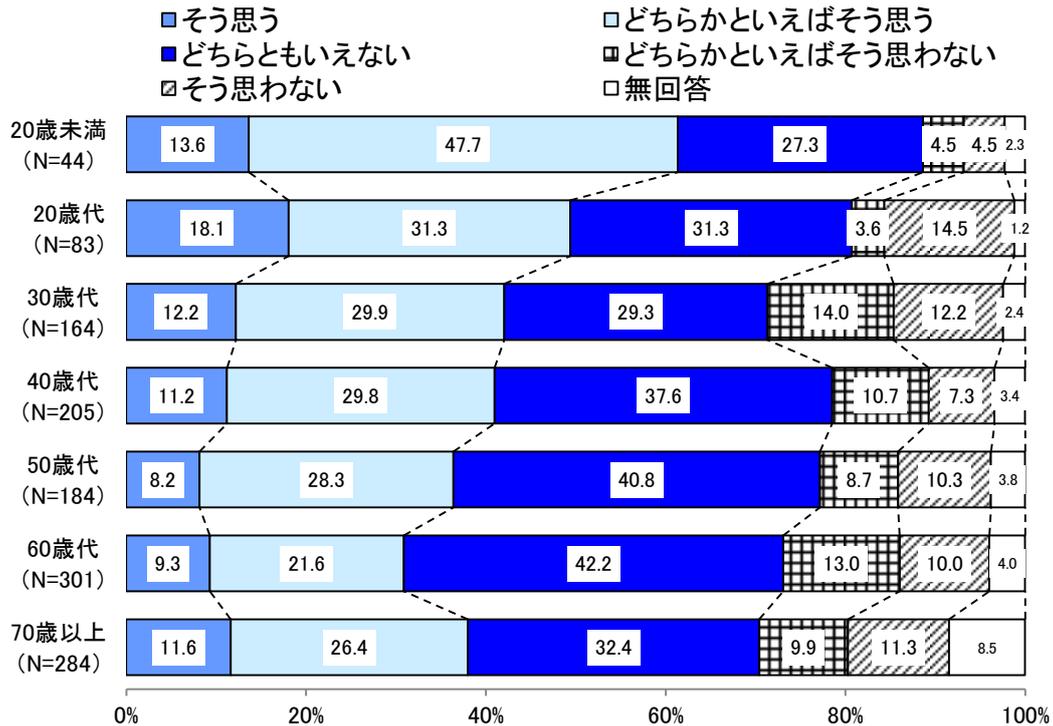
【図表 3-4-2 年齢別 イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる】



「イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる」を年齢別にみると、いずれの年齢でも“否定派”が“肯定派”を上回っている。“肯定派”は20歳未満では1割あまり、20歳代以上では2割あまりとなっている。(図表 3-4-2)

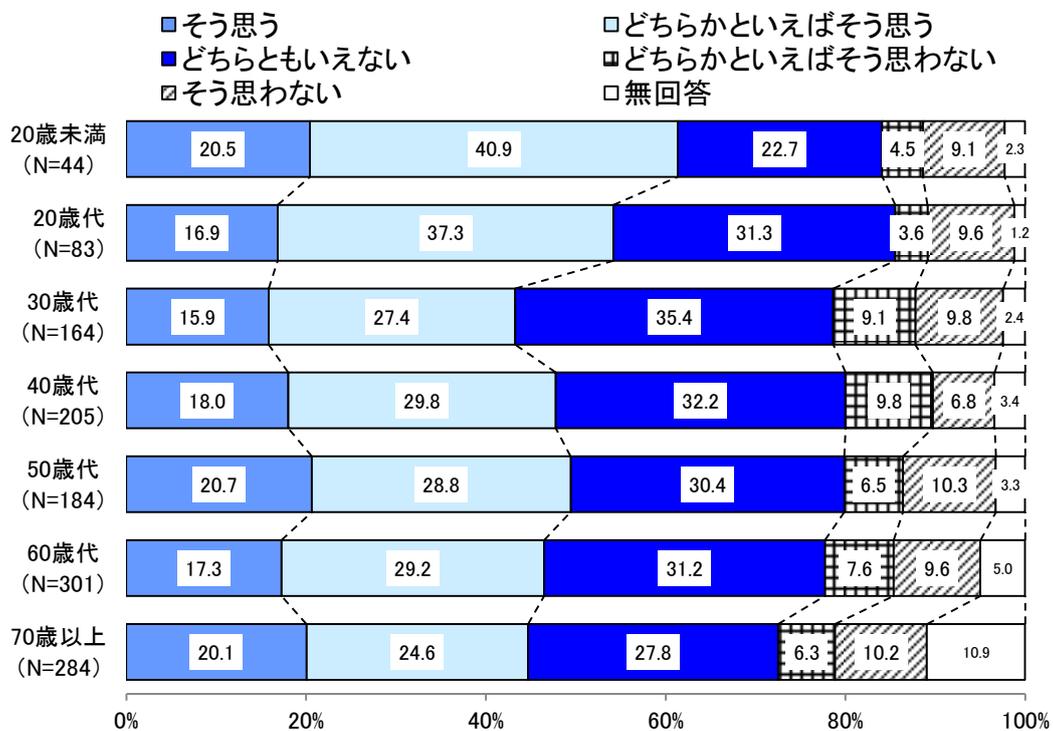
【図表 3-4-3 年齢別 ウ. 今まで差別されてきた同和地区の人々のくやしさを思えば、

差別について厳しく追求するのも理解できる】



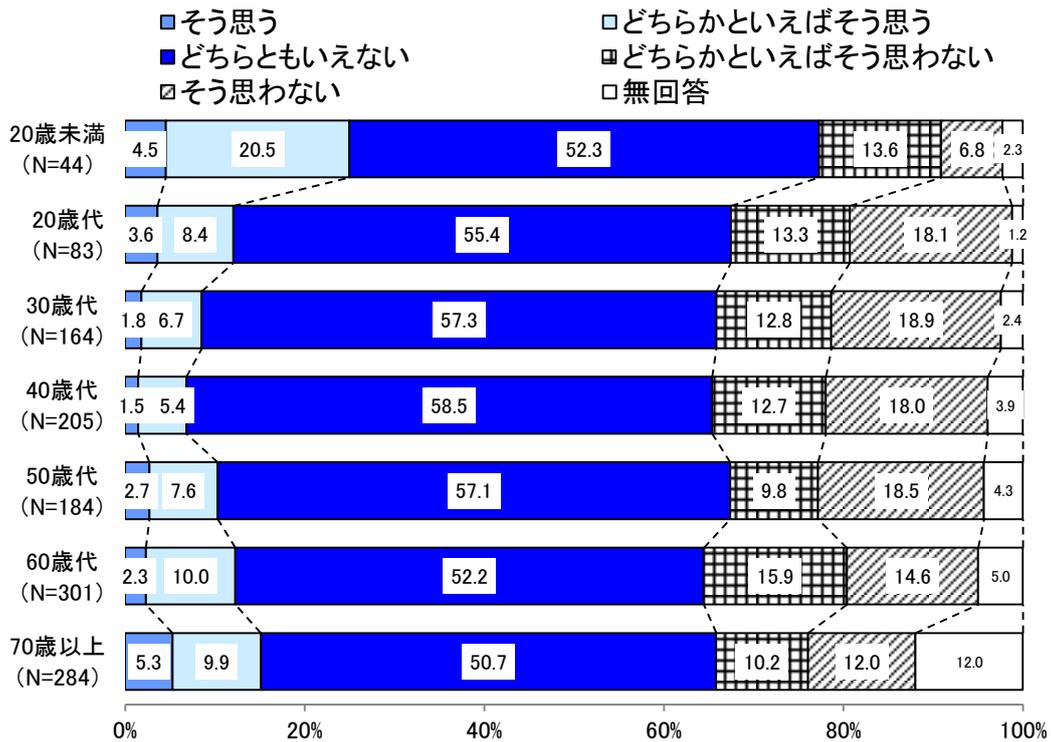
「ウ. 今まで差別されてきた同和地区の人々のくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる」を年齢別でみると、いずれの年齢でも“肯定派”が“否定派”を上回っている。“肯定派”は20歳未満が61.3%で最も高く、年齢が上がるにつれておおむね割合が低くなっている。(図表 3-4-3)

【図表 3-4-4 年齢別 エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる】



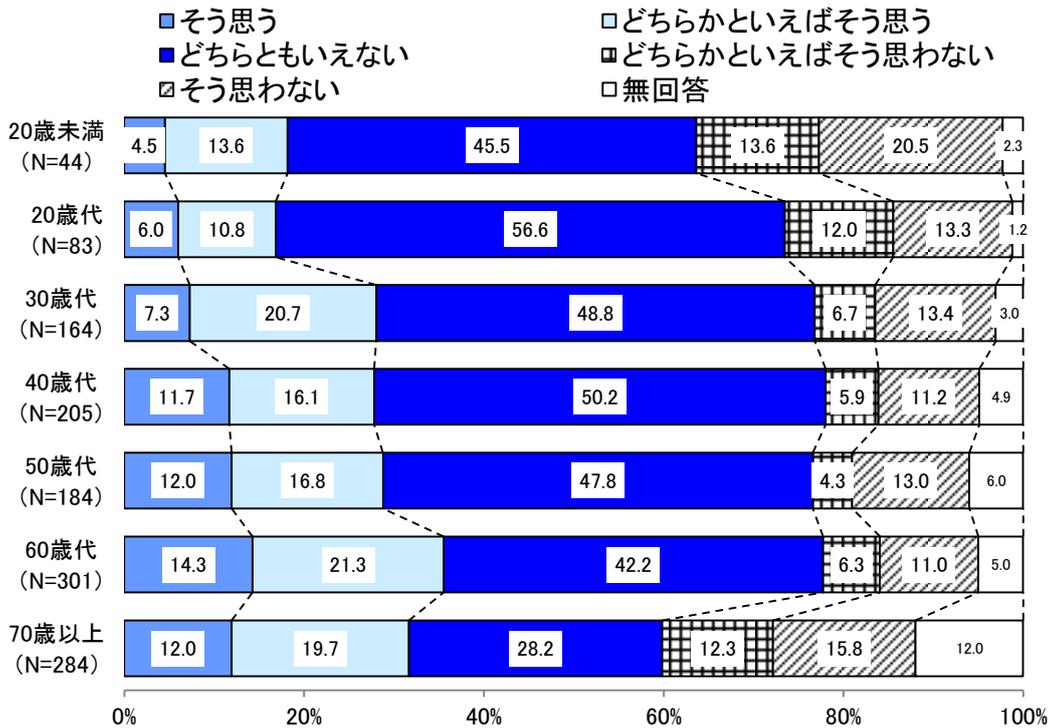
「エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる」を年齢別でみると、いずれの年齢でも“肯定派”が“否定派”を上回っている。“肯定派”は20歳未満が61.4%で最も高く、次いで20歳代が54.2%となっている。30歳代以上では“肯定派”は4割台となっている。(図表 3-4-4)

【図表 3-4-5 年齢別 オ. 同和地区の人々には、差別されるくやしさを知っているだけに、
人として思いやりがある人が多い】



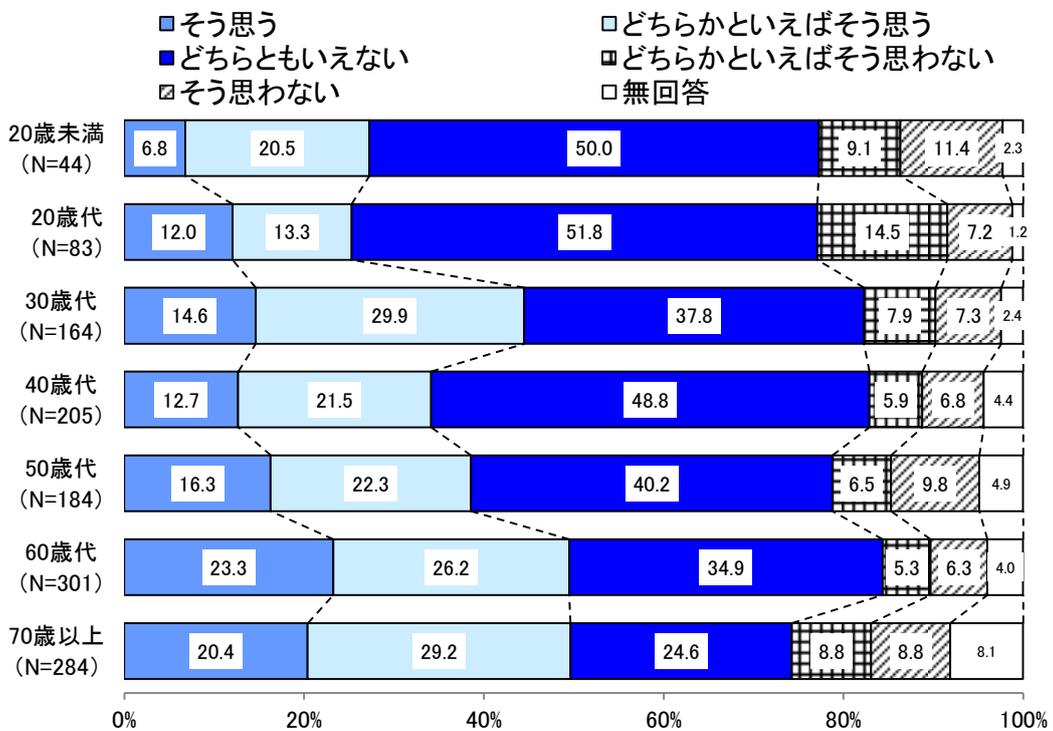
「オ. 同和地区の人々には、差別されるくやしさを知っているだけに、人として思いやりがある人が多い」を年齢別でみると、20歳未満では“肯定派”が“否定派”を上回っているが、それ以外の年齢では“否定派”が“肯定派”を上回っている。(図表 3-4-5)

【図表 3-4-6 年齢別 カ. 同和地区の人は何かあると集団でおしかけてくる】



「カ. 同和地区の人は何かあると集団でおしかけてくる」を年齢別で見ると、20歳代以下では“否定派”が“肯定派”を上回っているが、30歳代以上では“肯定派”が“否定派”を上回っている。（図表 3-4-6）

【図表 3-4-7 年齢別 キ. 同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる】

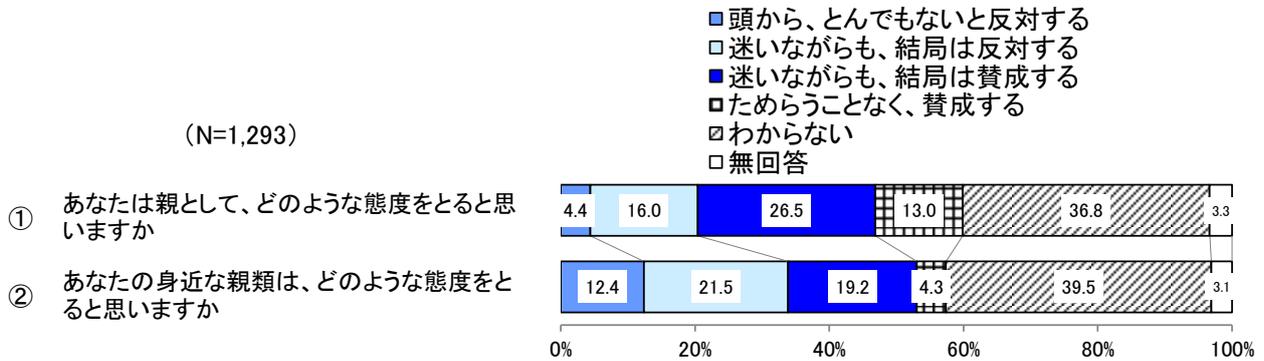


「キ. 同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる」を年齢別で見ると、いずれの年齢でも“肯定派”が“否定派”を上回っている。“肯定派”は60歳代以上では約5割、30歳代では4割あまりで、それ以外の年齢と比べて高くなっている。（図表 3-4-7）

(5) 同和地区の方との結婚について

問 11 もし仮に、あなたのお子さん（お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください）が恋愛をし、結婚をしたいといっている相手が同和地区の人であった場合についてお聞きします。（それぞれあてはまる番号1つに○）

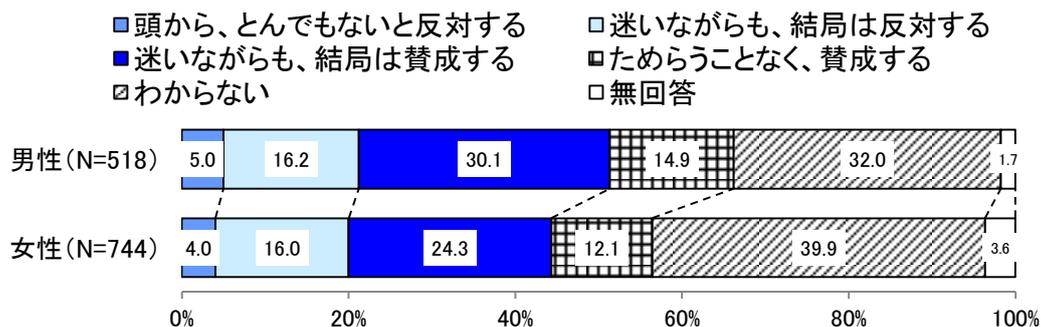
【図表 3-5 同和地区の方との結婚について】



同和地区の方との結婚について、「①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか」の質問に対しては“賛成派”（「迷いながらも、結局は賛成する」と「ためらうことなく、賛成する」を合わせた数）が“反対派”（「頭から、とんでもないと反対する」と「迷いながらも、結局は反対する」を合わせた数）と比べて 19.1 ポイント高くなっている。

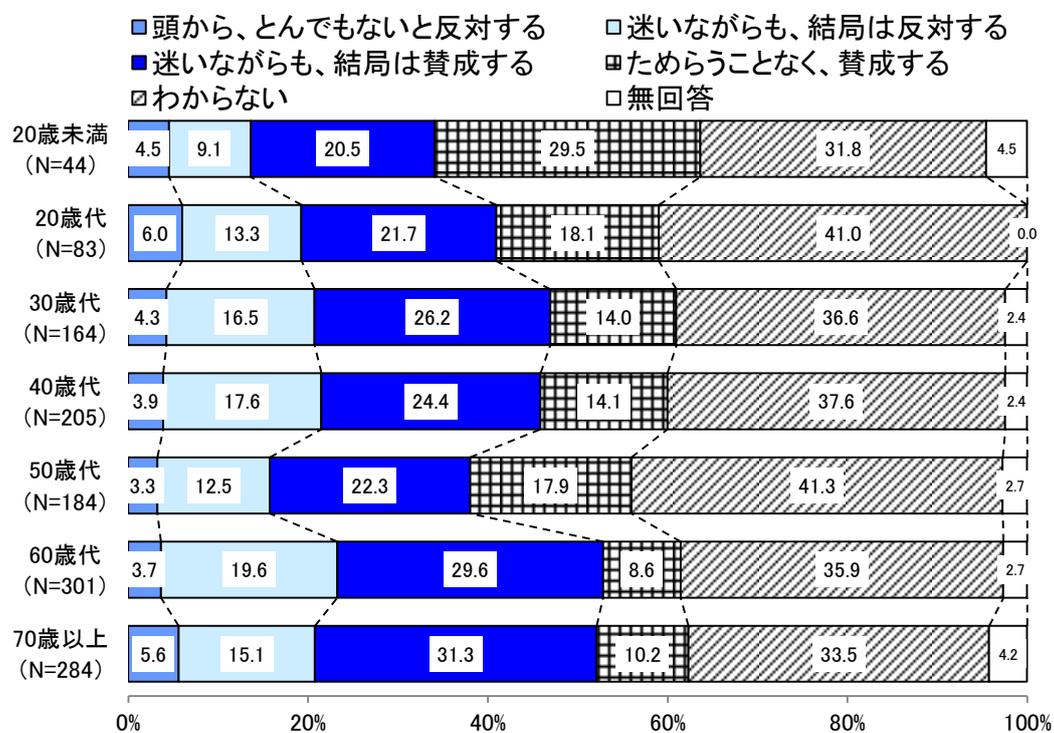
一方、「②あなたの身近な親類は、どのような態度をとると思いますか」の質問に対しては“反対派”が“賛成派”と比べて 10.4 ポイント高くなっている。（図表 3-5）

【図表 3-5-1 性別 ①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか】



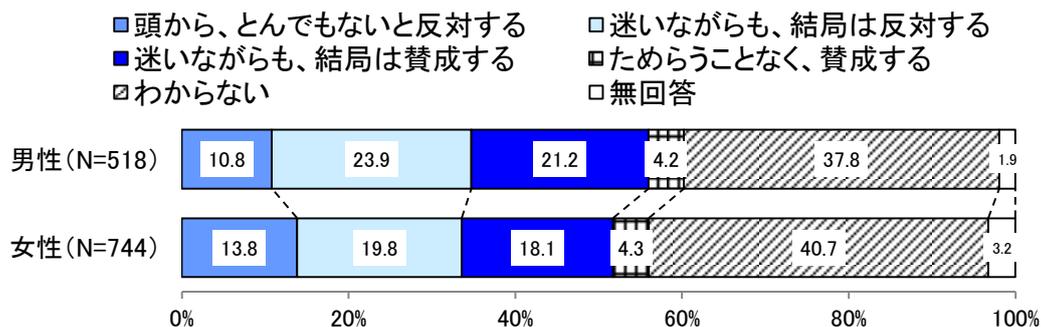
「①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか」を性別で見ると、男女ともに“賛成派”が“反対派”を上回っている。また男性は女性と比べて“賛成派”が8.6ポイント高くなっている。(図表 3-5-1)

【図表 3-5-2 年齢別 ①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか】



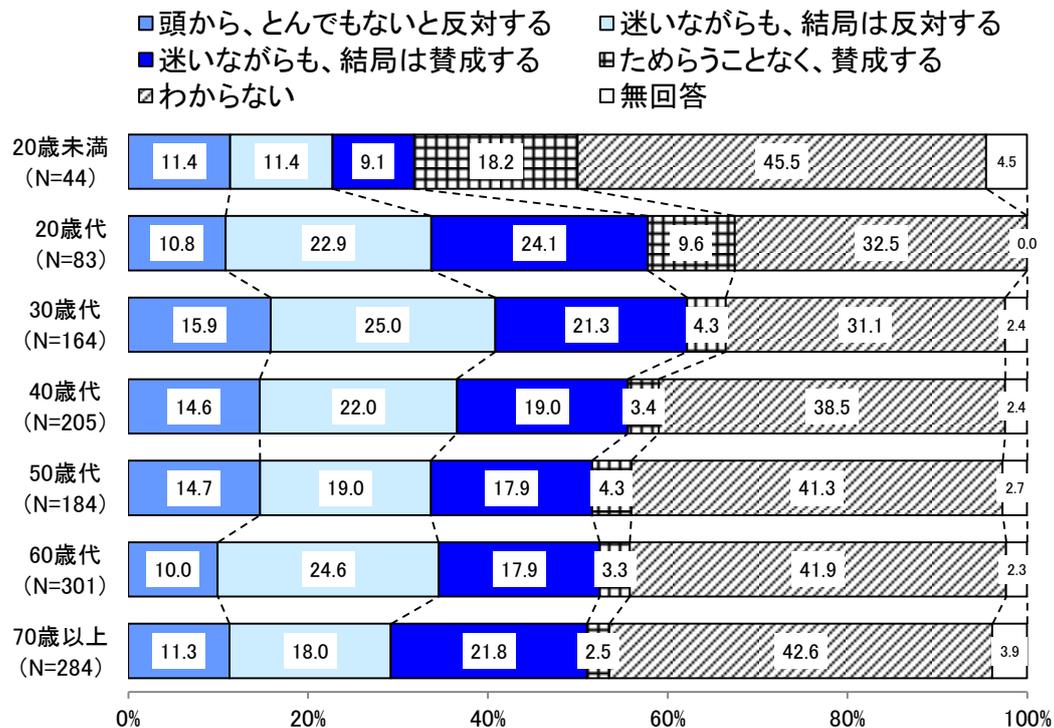
「①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか」を年齢別で見ると、いずれの年齢でも“賛成派”が“反対派”を上回っている。“反対派”は60歳代が23.3%で最も高く、次いで40歳代が21.5%、70歳以上が20.7%となっている。(図表 3-5-2)

【図表 3-5-3 性別 ②あなたの身近な親類は、どのような態度をとると思いますか】



「②あなたの身近な親類は、どのような態度をとると思いますか」を性別で見ると、男女ともに“反対派”が“賛成派”を上回っている。(図表 3-5-3)

【図表 3-5-4 年齢別 ②あなたの身近な親類は、どのような態度をとると思いますか】

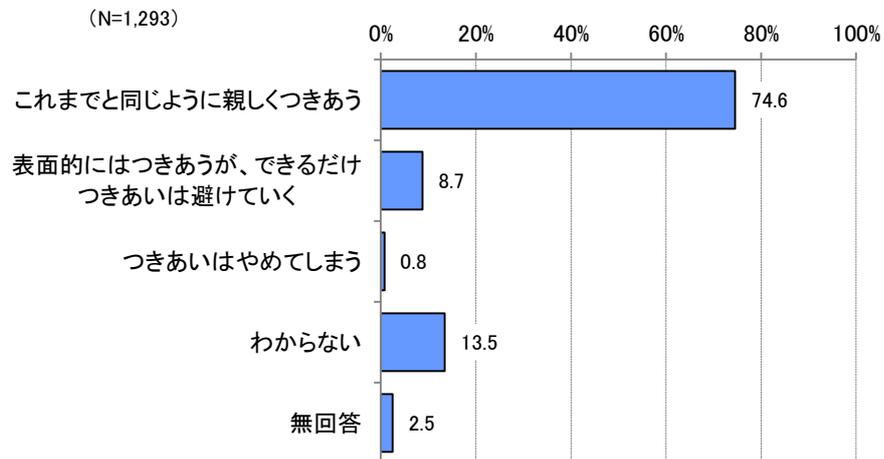


「②あなたの身近な親類は、どのような態度をとると思いますか」を年齢別で見ると、30歳代以上では“反対派”が“賛成派”を上回っている。20歳未満では“賛成派”が“反対派”と比べて4.5ポイント高く、20歳代では“賛成派”と“反対派”が同数となっている。(図表 3-5-4)

(6) 日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合

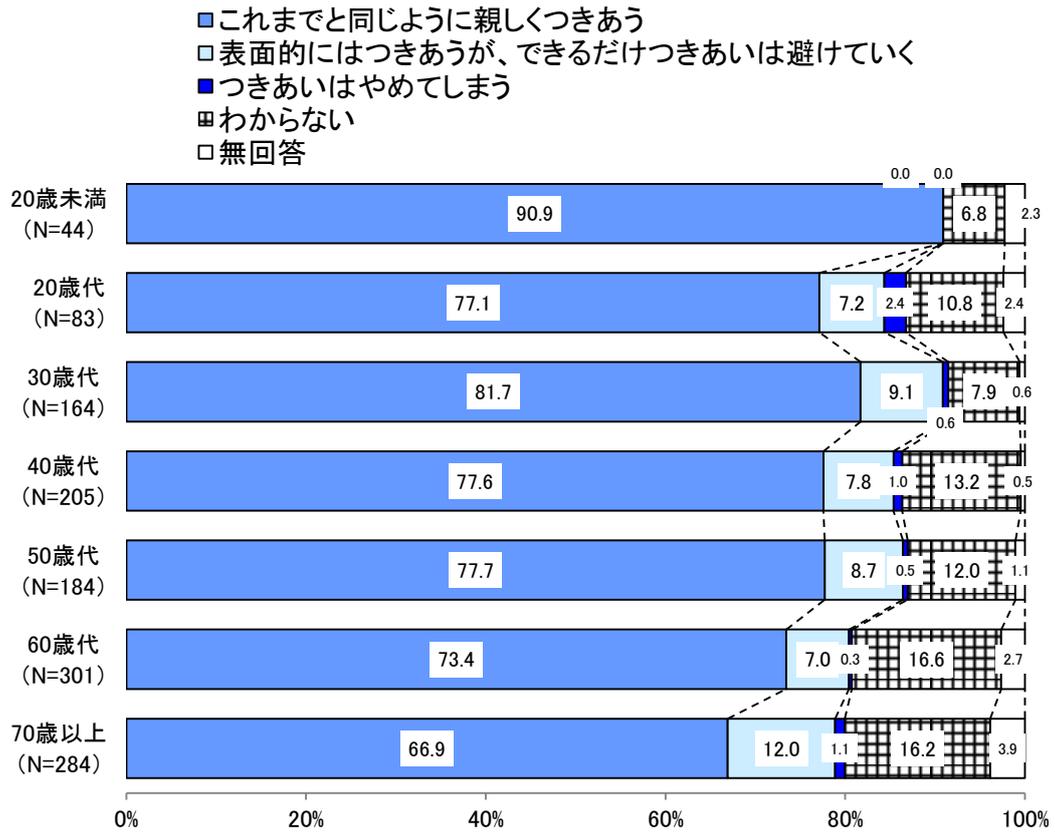
問 12 仮に、日ごろから親しくつきあっている人が、なにかのことで同和地区出身の人であることがわかった場合、あなたはどのようにしますか。(あてはまる番号1つに○)

【図表 3-6 日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合】



日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合については、「これまでと同じように親しくつきあう」が74.6%で最も高くなっている。(図表 3-6)

【図表 3-6-1 年齢別 日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合】

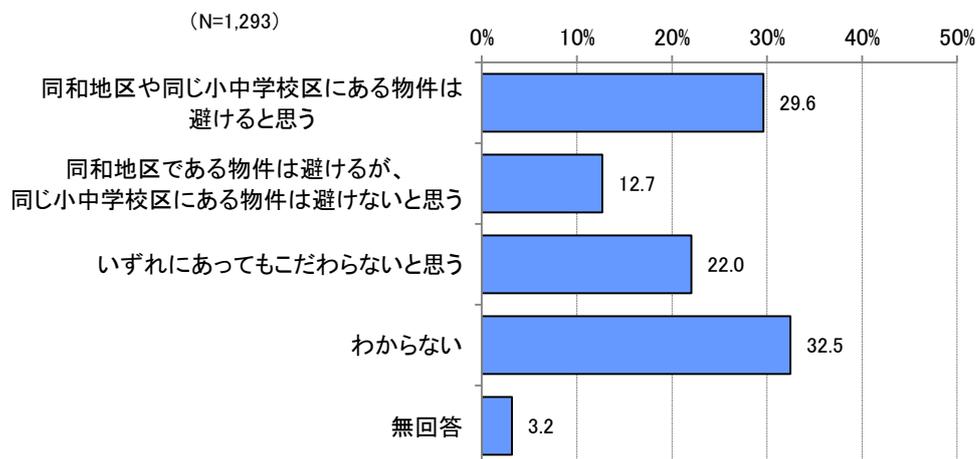


日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合を年齢別でみると、いずれの年齢でも「これまでと同じように親しくつきあう」が最も高くなっているが、おおむね年齢が上がるにつれて低くなり、20歳未満では90.9%だが70歳以上では66.9%にとどまっている。(図表 3-6-1)

(7) 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて

問 13 もしあなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区にある物件、もしくは小中学校区に同和地区がある物件ならばどのようにすると思いますか。(あてはまる番号1つに○)

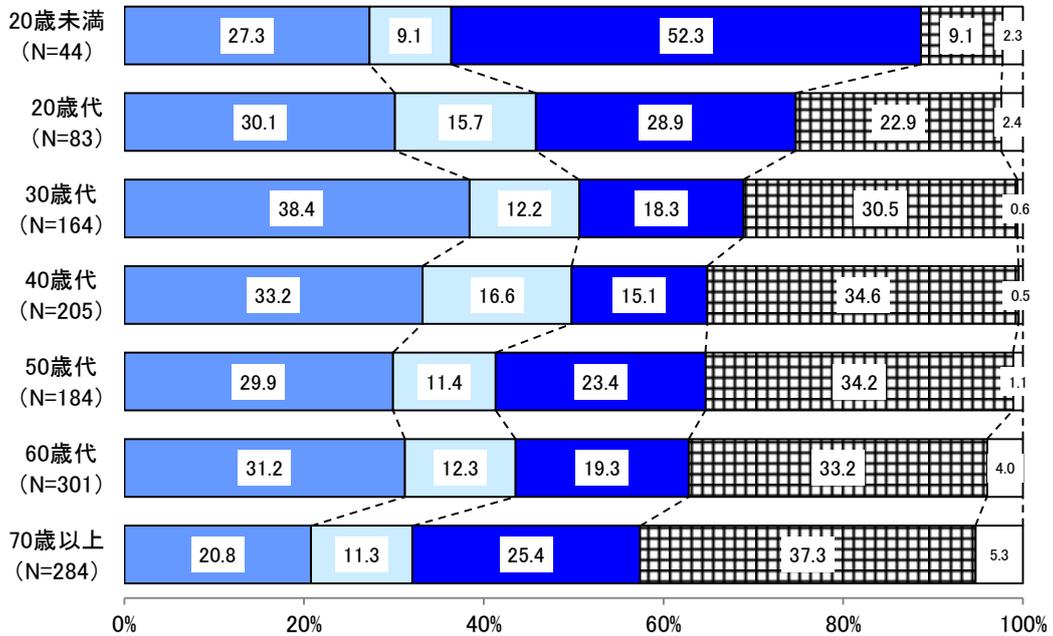
【図表 3-7 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて】



同和地区内で住宅を購入、賃貸することについては、「わからない」が 32.5%で最も高く、次いで「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」が 29.6%、「いずれにあってもこだわらないと思う」が 22.0%となっている。(図表 3-7)

【図表 3-7-1 年齢別 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて】

- 同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う
- 同和地区である物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は避けたいと思う
- いずれにあってもこだわらないと思う
- 田 わからない
- 無回答



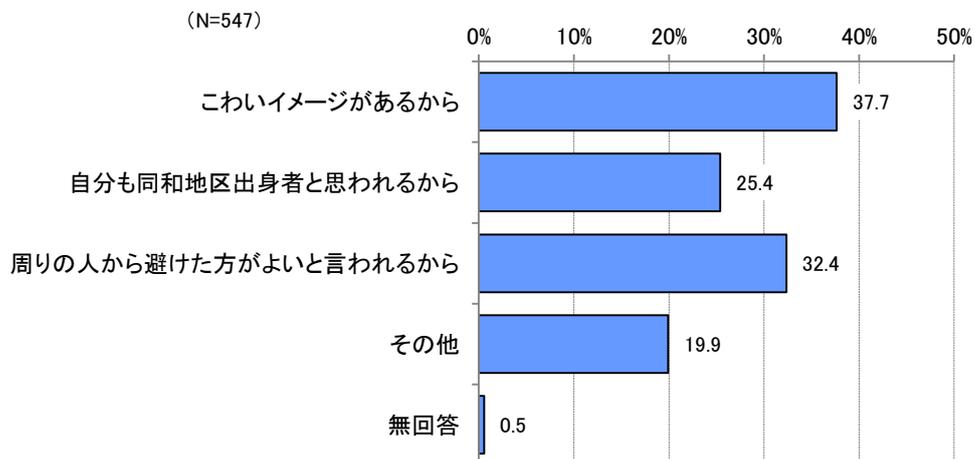
同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて年齢別でみると、“同和地区を避ける”（「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」と「同和地区である物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は避けたいと思う」を合わせた数）は30歳代が50.6%で最も高く、次いで40歳代が49.8%、20歳代が45.8%となっている。（図表 3-7-1）

(8) 同和地区を避ける理由

問 14 問 13 で、「1」「2」と答えた方にお聞きします。

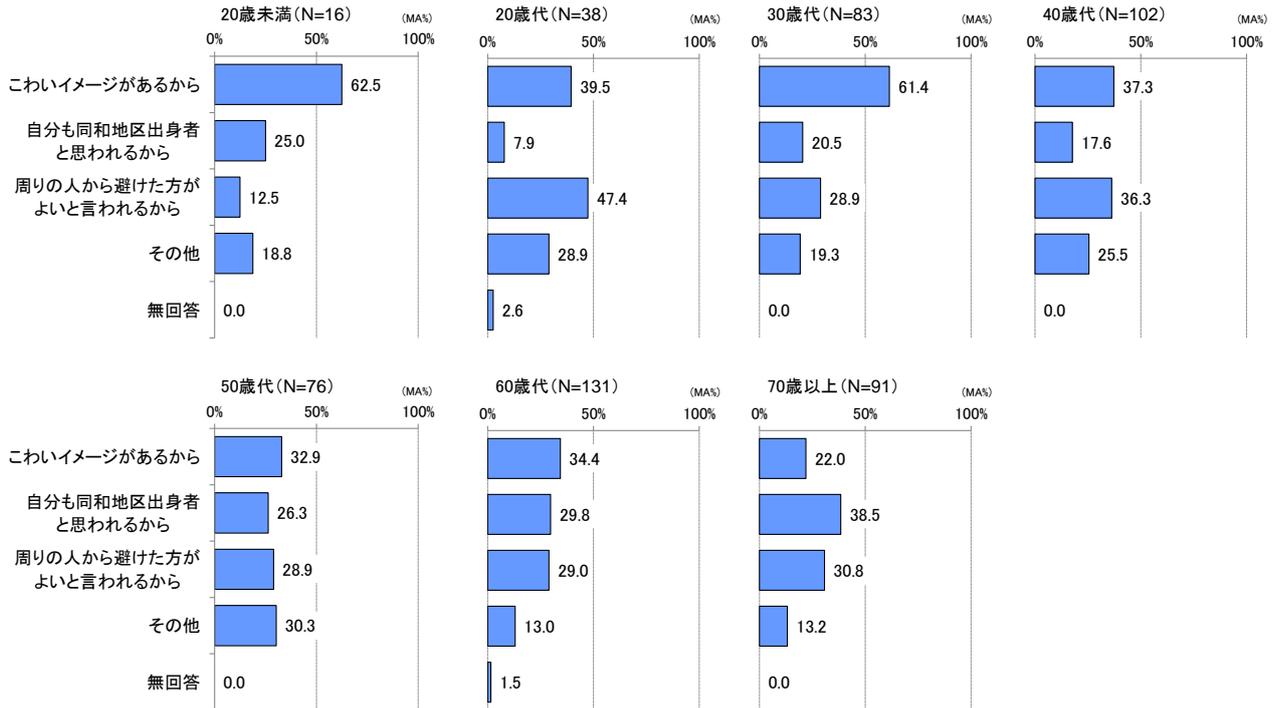
あなたはなぜそのように思うのですか。(あてはまる番号すべてに○)

【図表 3-8 同和地区を避ける理由】



同和地区を避ける理由については、「こわいイメージがあるから」が 37.7%で最も高く、次いで「周りの人から避けた方がよいと言われるから」が 32.4%、「自分も同和地区出身者と思われるから」が 25.4%となっている。(図表 3-8)

【図表 3-8-1 年齢別 同和地区を避ける理由】

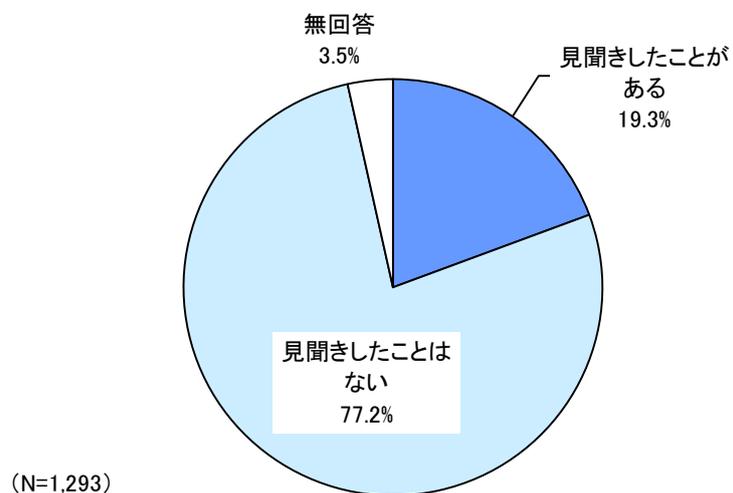


同和地区を避ける理由を年齢別にみると、20歳未満と30歳代は「こわいイメージがあるから」が6割台で、それ以外の回答項目を大きく上回っている。20歳代と40歳代は「こわいイメージがあるから」と「周りの人から避けた方がよいと言われるから」が4割前後となっている。50歳代と60歳代は「こわいイメージがあるから」が3割余りで最も高くなっている。70歳以上は「自分も同和地区出身者と思われるから」が約4割で最も高くなっている。(図表 3-8-1)

(9) 同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験

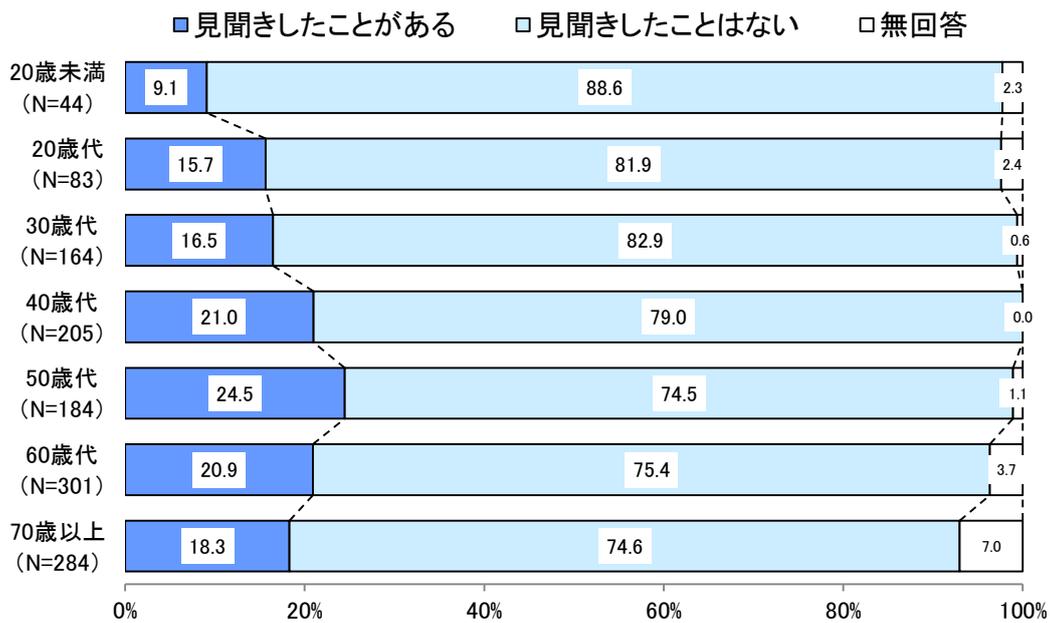
問 15 あなたは、同和地区の人々に対する差別的な言動や落書きを見聞きしたことがありますか。
(あてはまる番号 1 つに○)

【図表 3-9 同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験】



同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験については、「見聞きしたことがある」が 19.3%、「見聞きしたことはない」が 77.2%となっている。(図表 3-9)

【図表 3-9-1 年齢別 同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験】

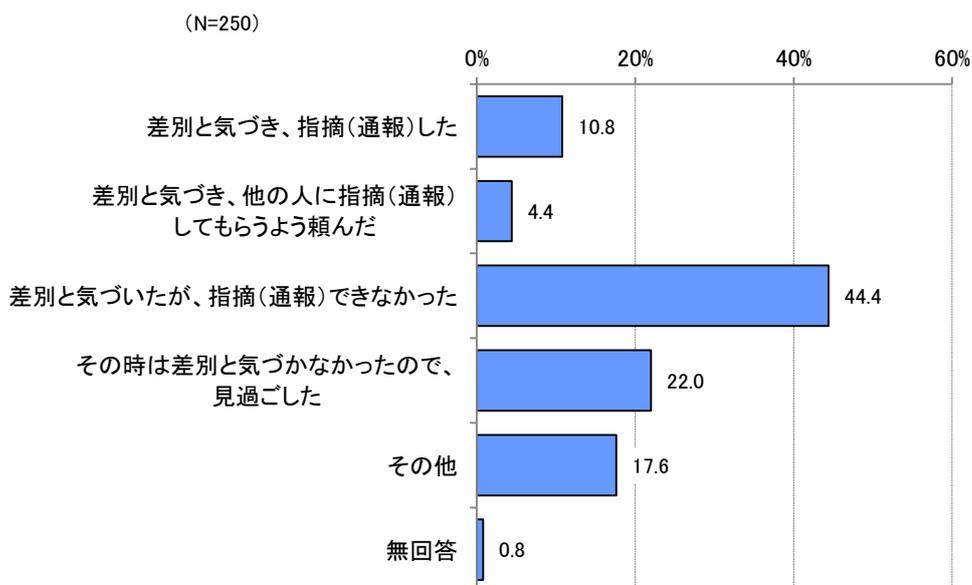


同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験を年齢別でみると、「見聞きしたことがある」は50歳代の24.5%を頂点に、年齢が上がるまたは下がるにつれて低くなっている。(図表 3-9-1)

(10) 同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応

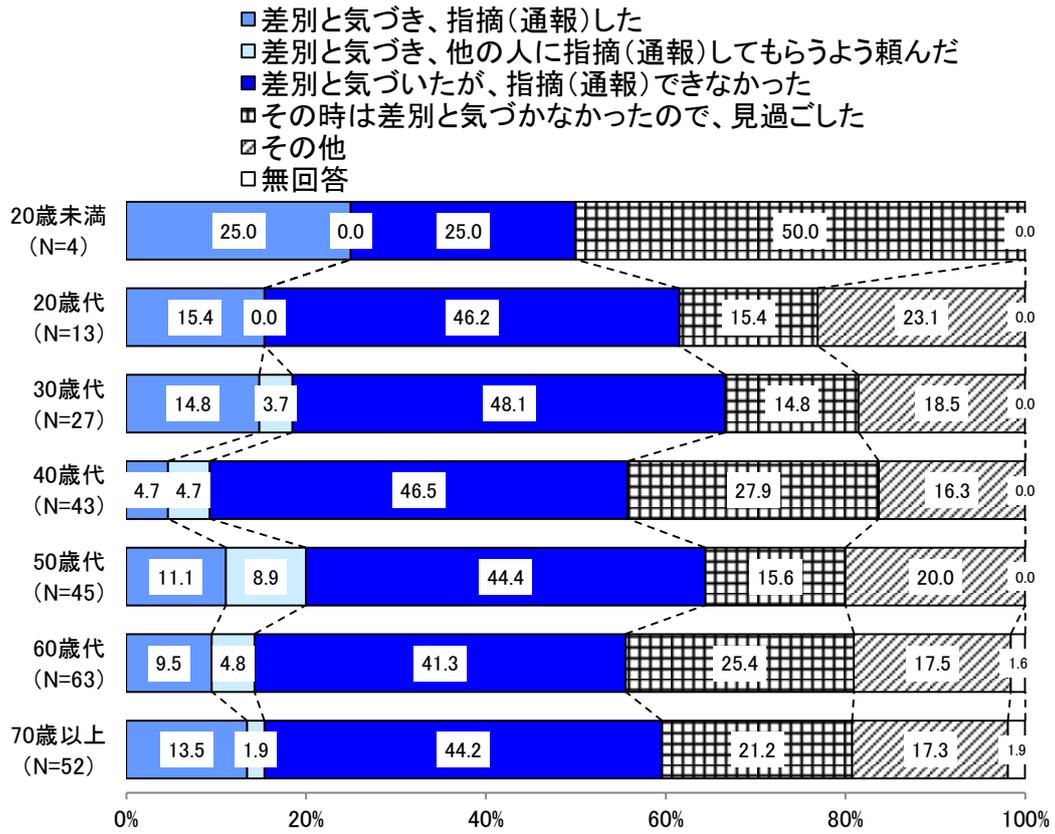
問 16 問 15 で、「1. 見聞きしたことがある」と答えた方にお聞きします。
その時あなたは、どうされましたか。(あてはまる番号 1 つに○)

【図表 3-10 同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応】



同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応については、「差別と気づいたが、指摘(通報)できなかった」が 44.4%で最も高く、次いで「その時は差別と気づかなかったので、見過ごした」が 22.0%となっている。“指摘した”(「差別と気づき、指摘(通報)した」と「差別と気づき、他の人に指摘(通報)してもらおう頼んだ」を合わせた数)は 15.2%となっている。(図表 3-10)

【図表 3-10-1 年齢別 同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応】



同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応を年齢別でみると、20歳代以上では「差別と気づいたが、指摘(通報)できなかった」が4割を超え最も高くなっている。(図表 3-10-1)

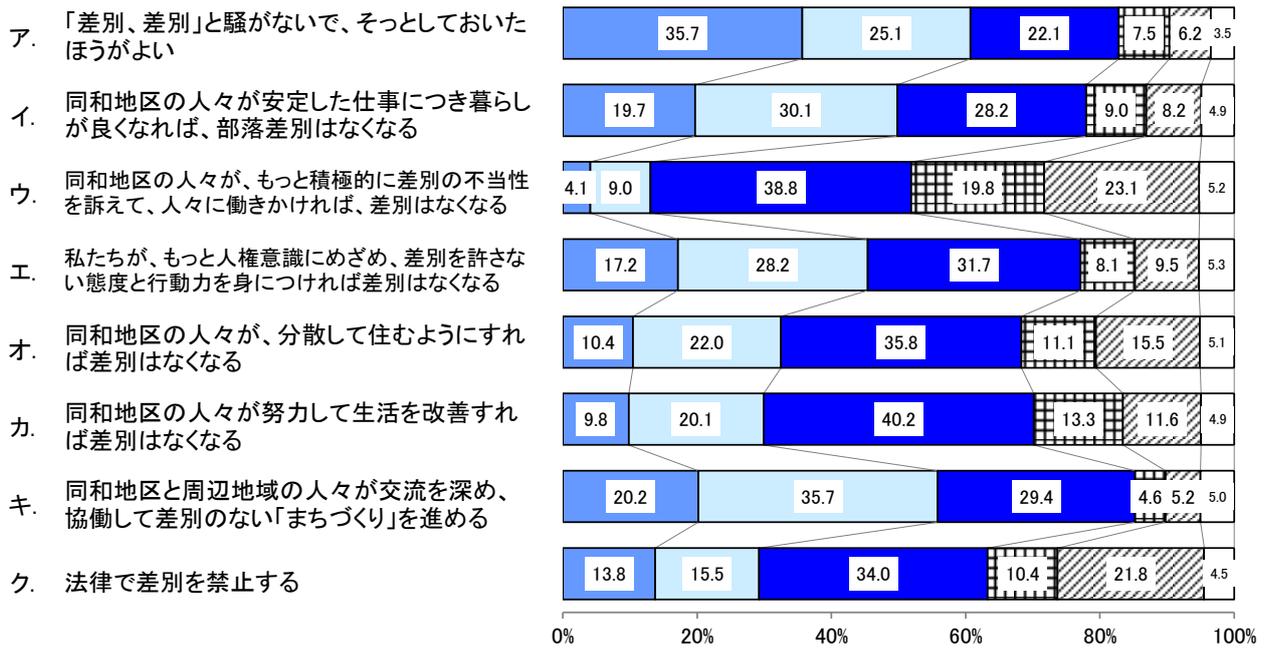
(11) 部落差別をなくす方法に関する意見

問 17 部落差別をなくす方法について、次のような意見があります。あなたはどのように思いますか。
(それぞれあてはまる番号 1 つに○)

【図表 3-11 部落差別をなくす方法に関する意見】

(N=1,293)

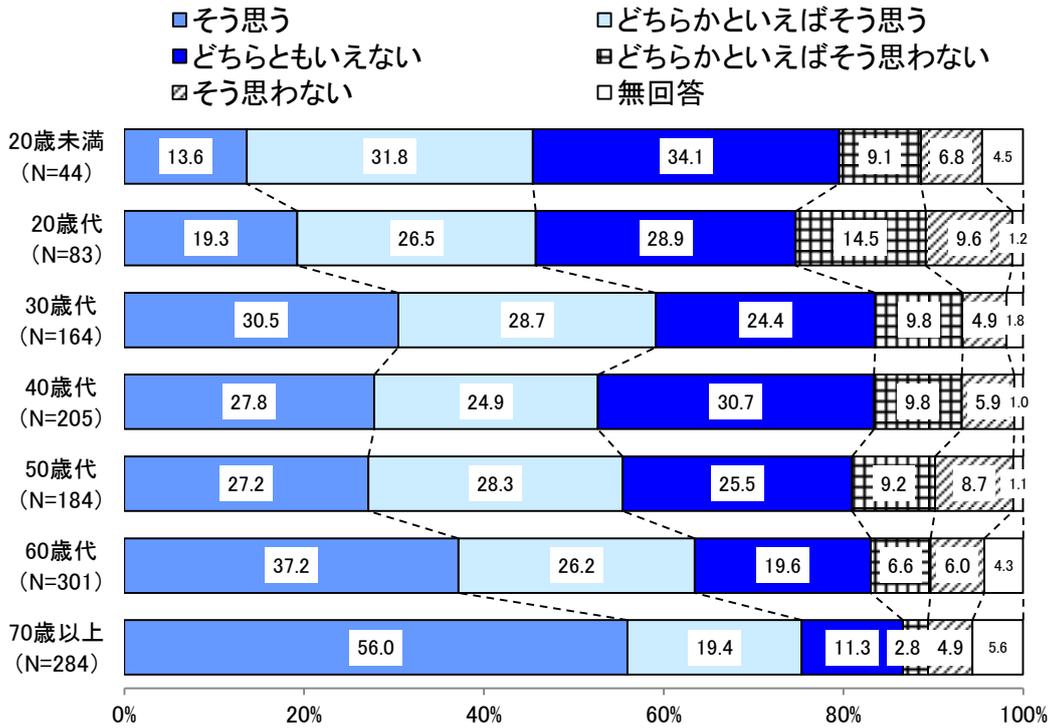
■ そう思う
 □ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらともいえない
 □ どちらかといえばそう思わない
 □ そう思わない
 □ 無回答



部落差別をなくす方法に関する意見として、“肯定派”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“否定派”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）に比べて高い項目は、「ア. 「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい」（60.8%）、「イ. 同和地区の人々が安定した仕事につき暮らしが良くなれば、部落差別はなくなる」（49.8%）、「エ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」（45.4%）、「オ. 同和地区の人々が、分散して住むようにすれば差別はなくなる」（32.4%）、「カ. 同和地区の人々が努力して生活を改善すれば差別はなくなる」（29.9%）、「キ. 同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進める」（55.9%）となっている。

一方、“否定派”が“肯定派”に比べて高い項目は、「ウ. 同和地区の人々が、もっと積極的に差別の不当性を訴えて、人々に働きかければ、差別はなくなる」（42.9%）、「ク. 法律で差別を禁止する」（32.2%）となっている。（図表 3-11）

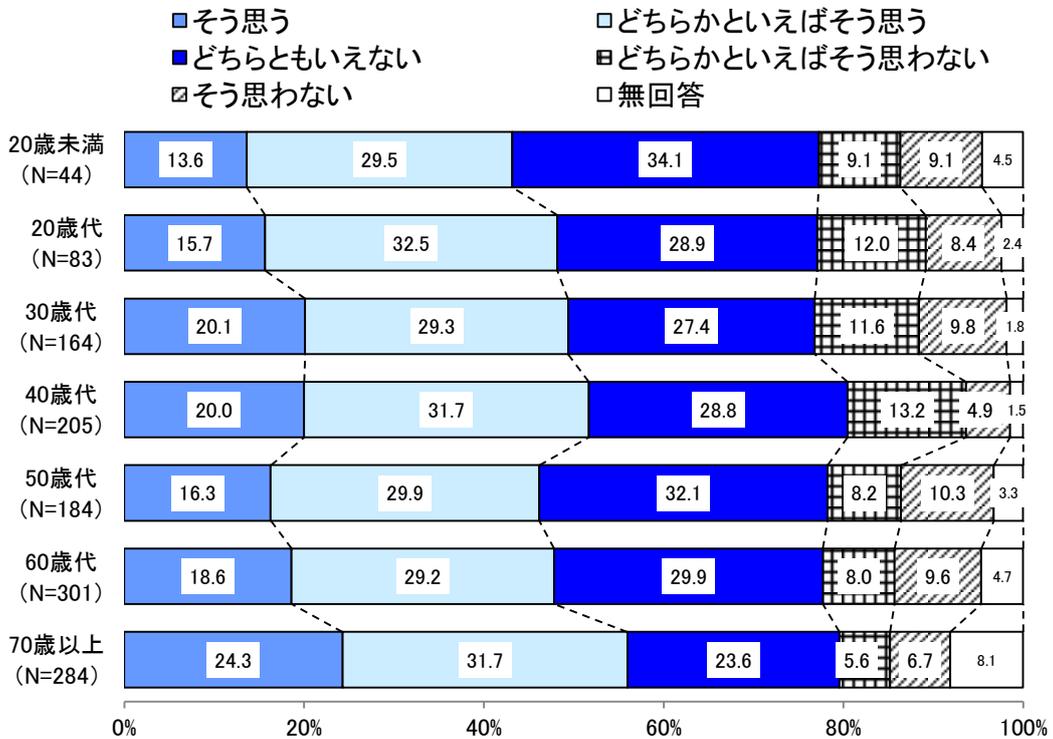
【図表 3-11-1 年齢別 ア. 「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい】



「ア. 「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい」を年齢別でみると、おおむね年齢が上がるにつれて“肯定派”が高くなり、20歳未満では45.4%だが70歳以上では75.4%に達している。(図表 3-11-1)

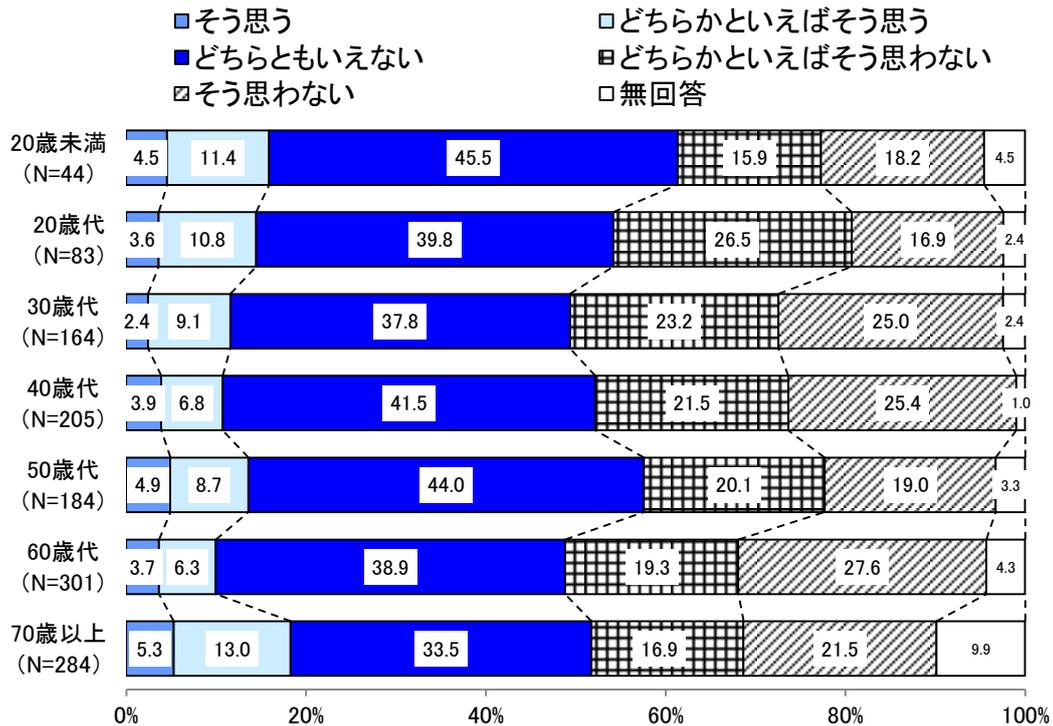
【図表 3-11-2 年齢別 イ. 同和地区の人々が安定した仕事につき暮らしが良くなれば、

部落差別はなくなる】



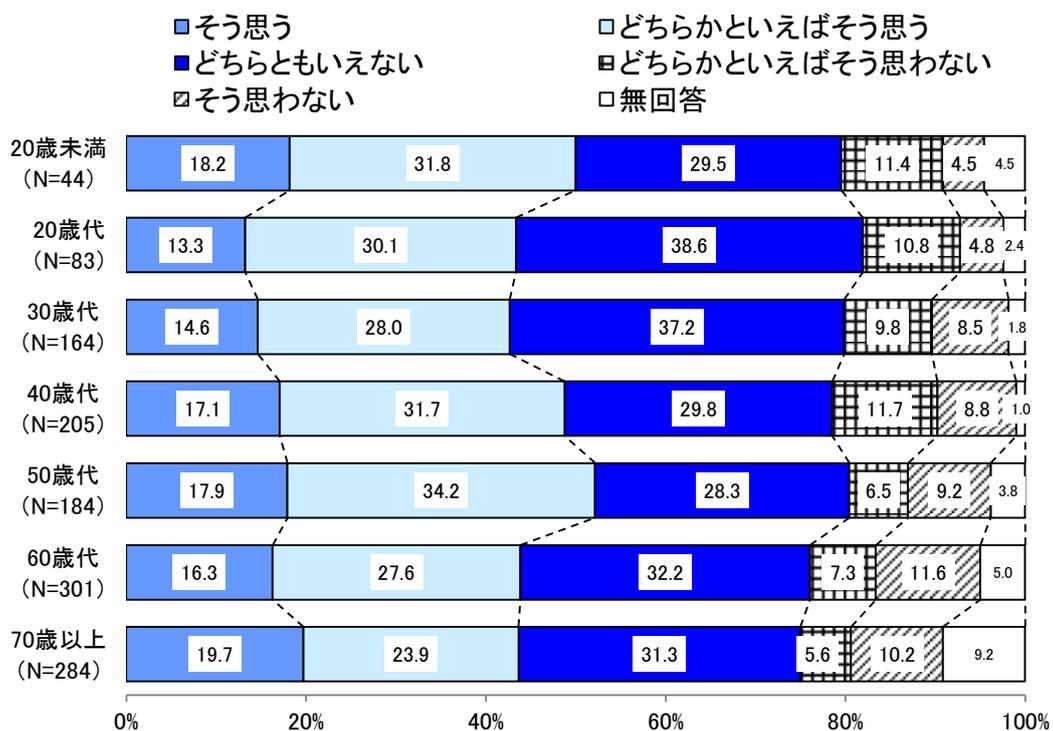
「イ. 同和地区の人々が安定した仕事につき暮らしが良くなれば、部落差別はなくなる」を年齢別でみると、40歳代と70歳以上は“肯定派”が5割台、それ以外の年齢では4割台となっている。(図表 3-11-2)

【図表 3-11-3 年齢別 ウ. 同和地区の人々が、もっと積極的に差別の不当性を訴えて、人々に働きかければ、差別はなくなる】



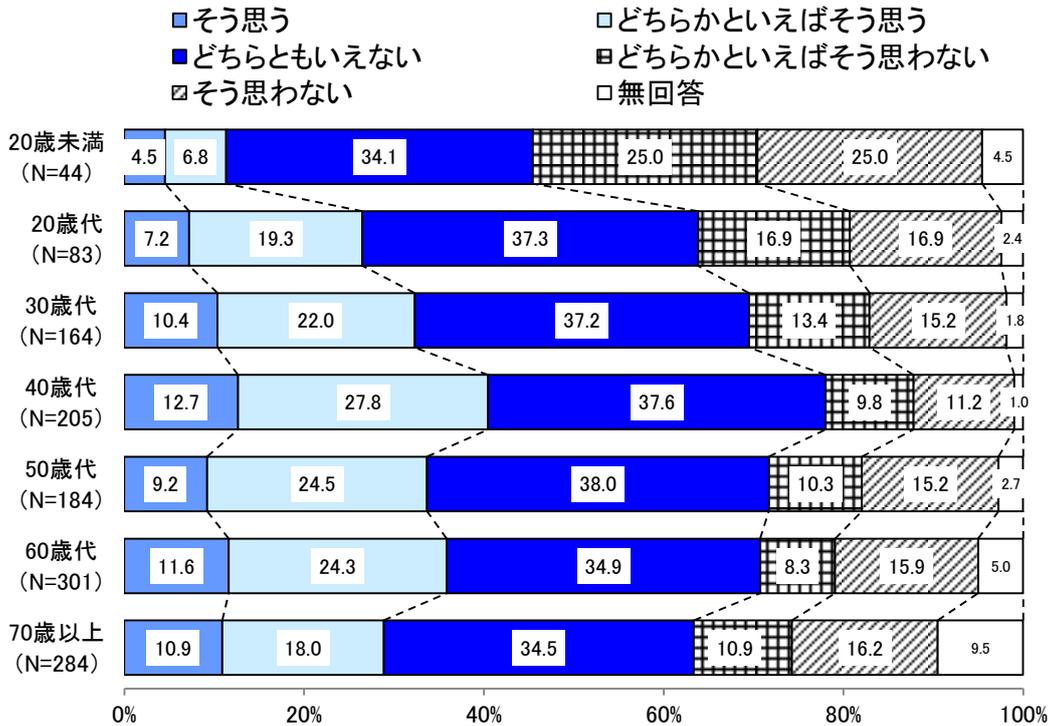
「ウ. 同和地区の人々が、もっと積極的に差別の不当性を訴えて、人々に働きかければ、差別はなくなる」を年齢別でみると、“否定派”は30歳代が48.2%で最も高く、次いで40歳代と60歳代が46.9%、20歳代が43.4%となっている。(図表 3-11-3)

【図表 3-11-4 年齢別 エ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる】



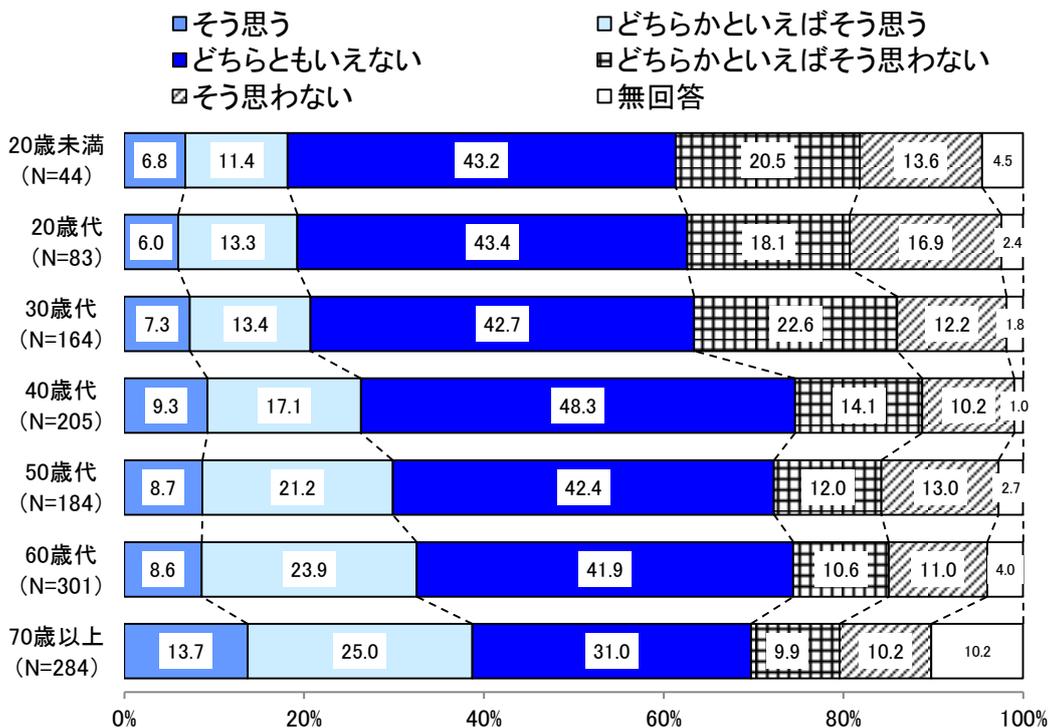
「エ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」を年齢別でみると、“肯定派”は50歳代が52.1%で最も高く、次いで20歳未満が50.0%、40歳代が48.8%となっている。(図表 3-11-4)

【図表 3-11-5 年齢別 オ. 同和地区の人々が、分散して住むようにすれば差別はなくなる】



「オ. 同和地区の人々が、分散して住むようにすれば差別はなくなる」を年齢別で見ると、“肯定派”は40歳代が40.5%で最も高く、次いで60歳代が35.9%、50歳代が33.7%となっている。20歳代以下は“否定派”が“肯定派”を上回っている。(図表 3-11-5)

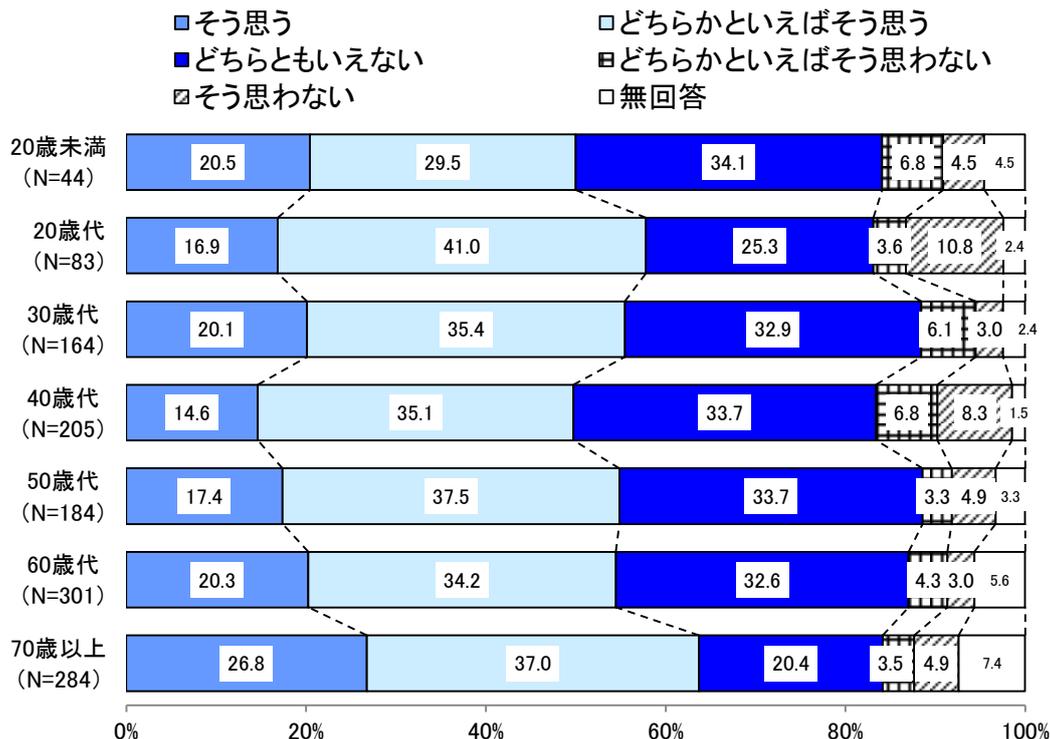
【図表 3-11-6 年齢別 カ. 同和地区の人々が努力して生活を改善すれば差別はなくなる】



「カ. 同和地区の人々が努力して生活を改善すれば差別はなくなる」を年齢別で見ると、“肯定派”は年齢が上がるにつれて高くなり、40歳代から“肯定派”が“否定派”を上回っている。(図表 3-11-6)

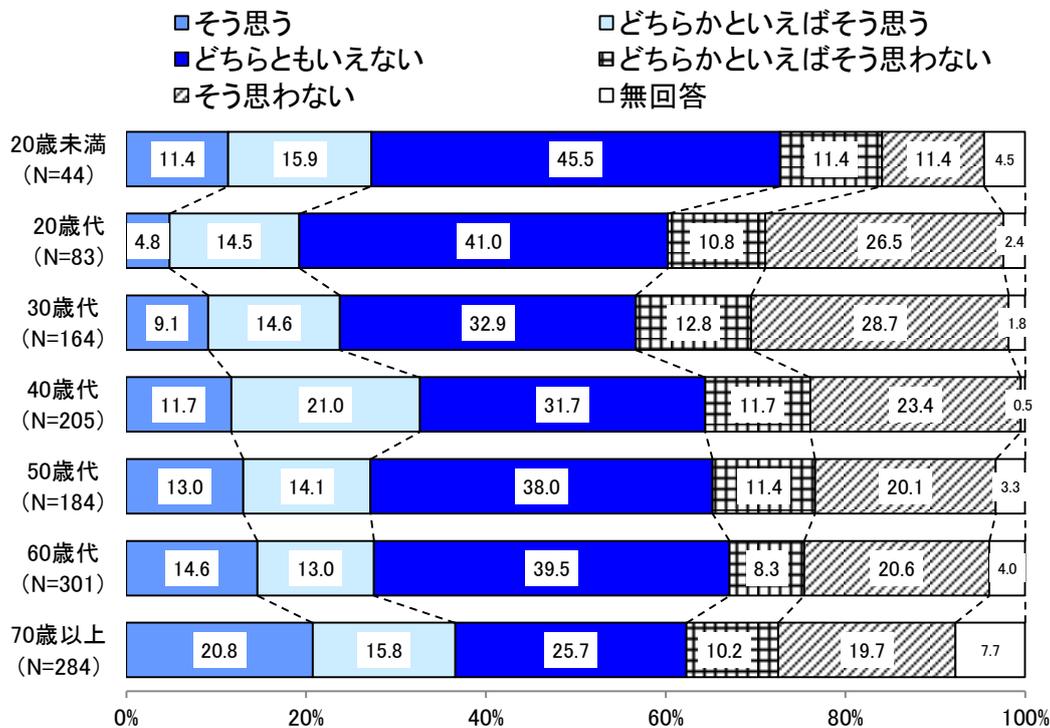
【図表 3-11-7 年齢別 キ. 同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、

協働して差別のない「まちづくり」を進める】



「キ. 同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進める」を年齢別で見ると、「肯定派」は70歳以上が63.8%で最も高く、次いで20歳代が57.9%、30歳代が55.5%となっている。(図表 3-11-7)

【図表 3-11-8 年齢別 ク. 法律で差別を禁止する】

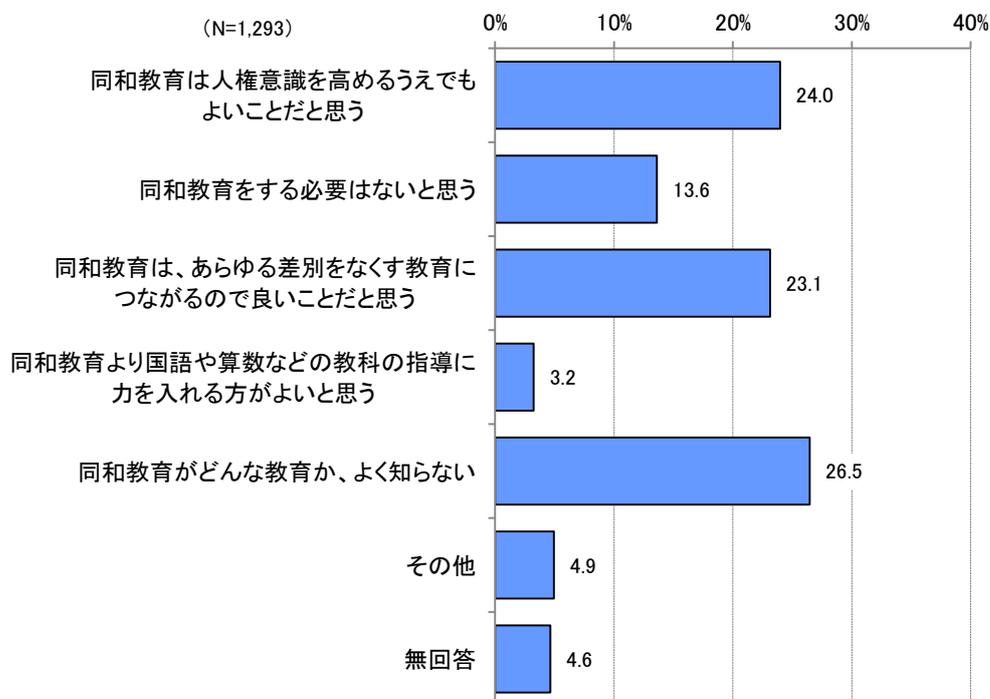


「ク. 法律で差別を禁止する」を年齢別で見ると、「肯定派」が「否定派」を上回っているのは20歳未満と70歳以上で、それ以外の年齢は「否定派」が「肯定派」を上回っている。(図表 3-11-8)

(12) 学校での「同和教育」について

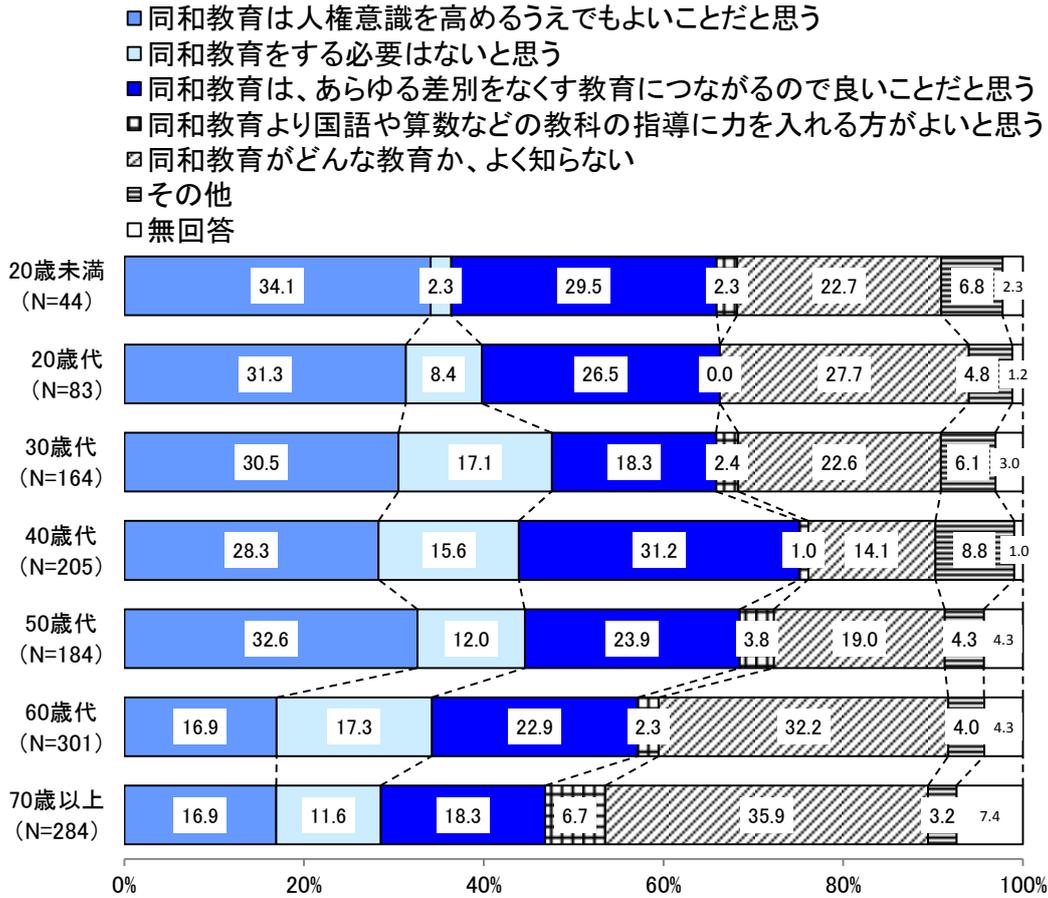
問 18 堺市では、学校で「同和教育」が行われていますが、あなたはどのようなお考えですか。
(あてはまる番号1つに○)

【図表 3-12 学校での「同和教育」について】



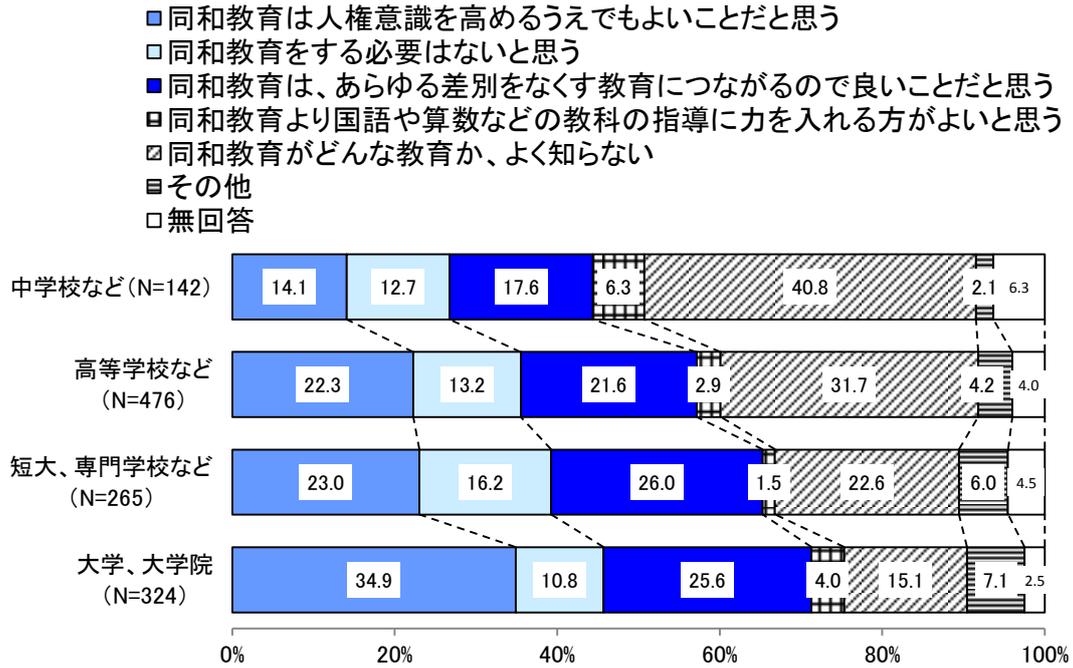
学校での「同和教育」については、“肯定派”（「同和教育は人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」と「同和教育は、あらゆる差別をなくす教育につながるので良いことだと思う」を合わせた数）は 47.1%、“否定派”（「同和教育をする必要はないと思う」と「同和教育より国語や算数などの教科の指導に力を入れる方がよいと思う」を合わせた数）は 16.8%で、“肯定派”が“否定派”を 30.3 ポイント上回っている。（図表 3-12）

【図表 3-12-1 年齢別 学校での「同和教育」について】



学校での「同和教育」について年齢別で見ると、いずれの年齢でも“肯定派”が“否定派”に比べて高くなっているが、その差は20歳未満、20歳代、40歳代、50歳代では40ポイントを上回っているのに対して、30歳代、60歳代、70歳以上では30ポイントを下回っている。(図表 3-12-1)

【図表 3-12-2 最終学歴別 学校での「同和教育」について】



学校での「同和教育」について最終学歴別でみると、高学歴になるにつれて“肯定派”が高くなっている。(図表 3-12-2)